立正大学
図書館所蔵

明代南蔵目録

立正大学図書館編
野沢佳美解説

立正大学
図書館所蔵

明代南蔵目録

立正大学図書館編
野沢佳美解説

図1　扇絵

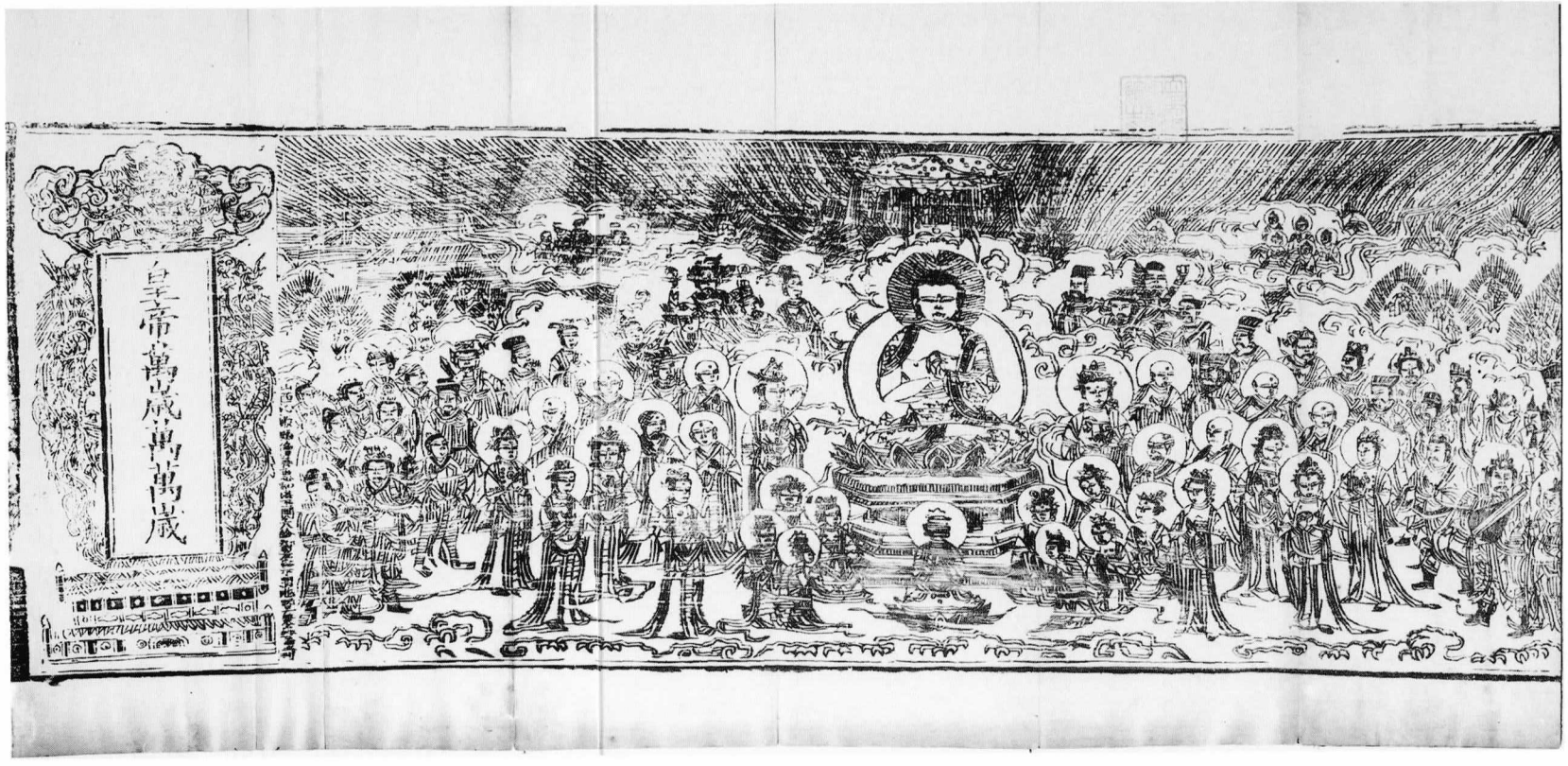

図 2　補刻扇絵

図3　経鋪A（徐後山）

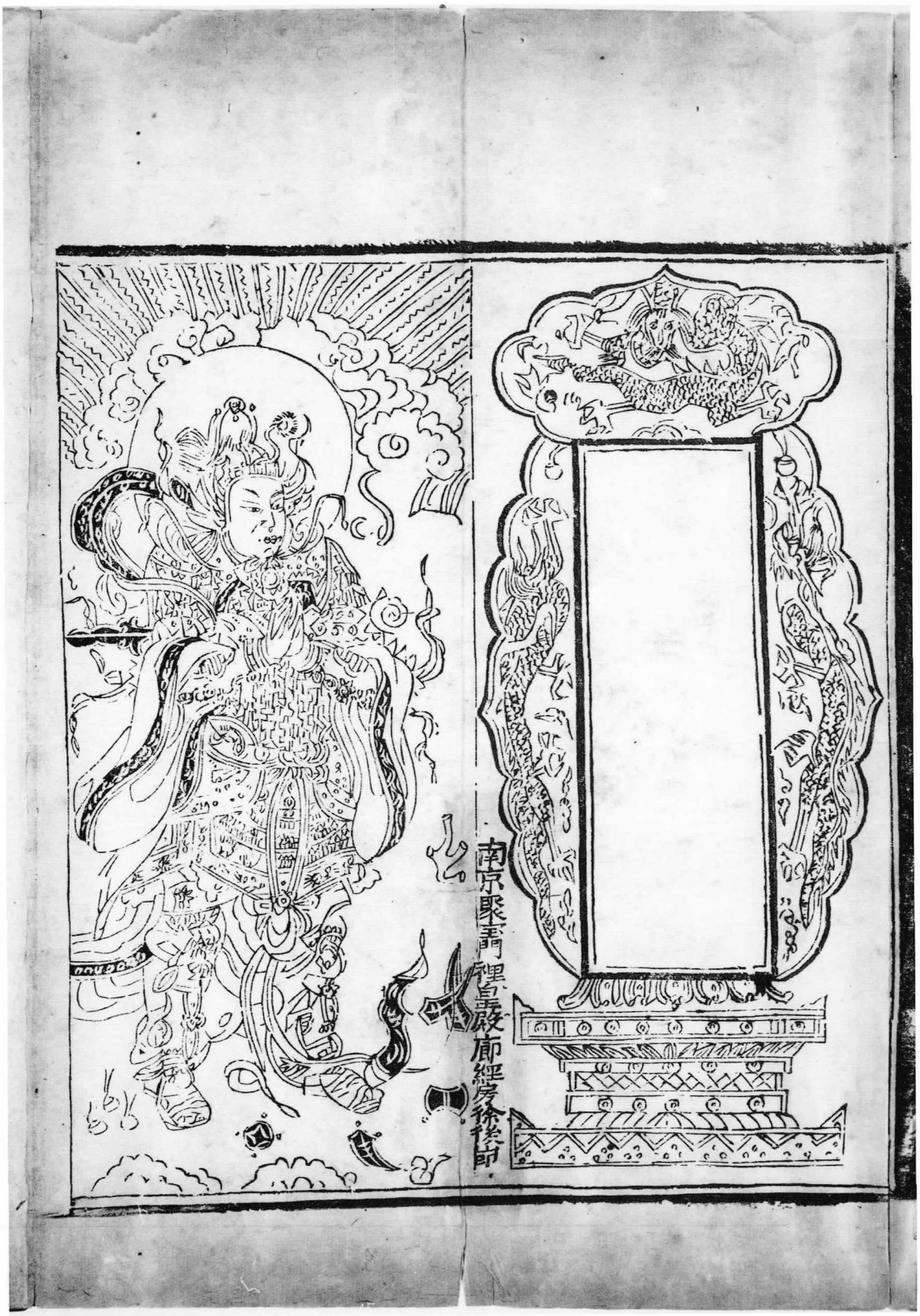

図4　経鋪B（徐後山）

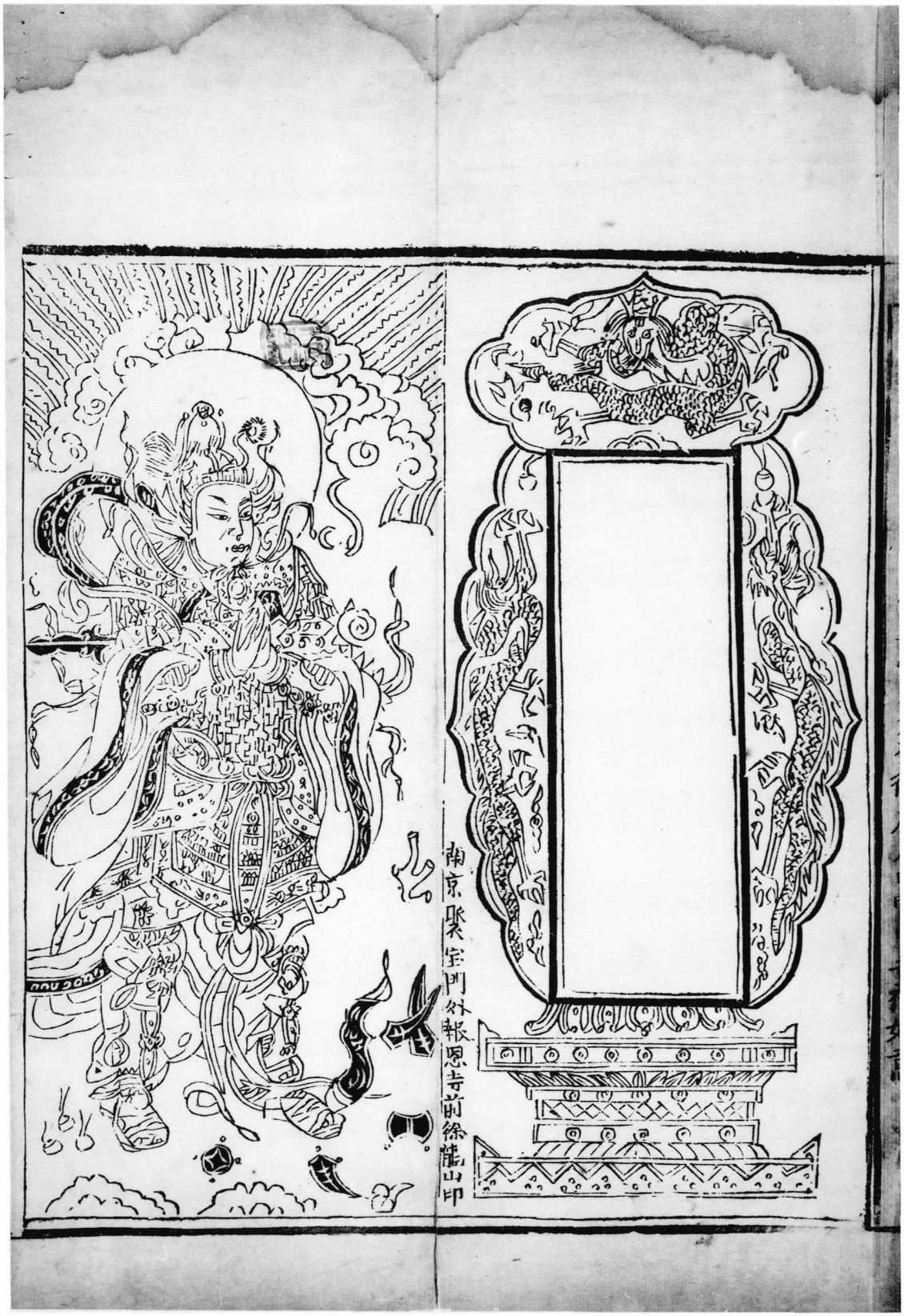

図5　経鋪C（徐龍山）

図6　経鋪D（徐雲泉）

図7　経鋪E（周鋪）

図8　経鋪F（曽甫）

萬曆十有八年庚寅歲山西潞安府長治縣太平鄉明道都一里角原村居住奉
佛信官趙繼先　同妻韓氏周氏　男信官趙和還璧　妻秦氏李
男庠生趙崑良璧　妻路氏汪氏　長孫庠生趙國秀　妻崔氏
各發誠心喜捨印造
大藏尊經一藏供奉法住寺轉輪藏永充供養計六百三十八函惟願見聞
隨喜同種善因了悟真常齊登彼岸凡向時中吉祥如意

双橋門裏胥用印

図9　刊記

八年上章乞歸故山大
明二年春僖宗遣難西
書宥輿詔赴行在帝接
谷田令孜與諸達官問
令諸學士撰玄師號皆
蘇州府天宮寺定山刊補
朕以開示悟入法華之
也悟達大道悟佛知見
悟河沙劫所以悟者眞
賜悟達國師爲號雖曰
讓不遂乃乞歸九隴舊
臥内見所曾遊歷聖境

図10　版心に見える補刻者例　I

一切中復有一切重重無
藏性圓融無盡以眞如性
切法即眞如故一切時處
頌云若人欲識眞空理身
與非情共一體處處皆同
比丘滿起
即見空此即眞如含一切
一一念劫收一切於一境
中諸境界只用一念觀諸
會時處帝網現重重一切
者水之漩流洄洑之處一
三難渡故法海漩洑亦然
六

図11　同　II

梵行未曾中礙八曰以
曰聞所說義要妙章句
聽經解義歸趣能爲人
利弗復有四法不失所
薩所作言行相應二曰
貪嫉四曰見他人安代
十 司礼監官刘思忠盖刊
四事至誠諦教何謂爲
常清淨氣優鉢香二曰
三曰諸天世人皆保信
獲佛音是爲四復有四
四一曰不生三趣無惜
乞十六種所見迷惑三

図12 同 III

羣生根本形所像類如所想念已
可施行已行當行甫當行者諸所
獲致所當說者唯如來自悉知見
處住于其地如雨等潤藥草叢林
上中下樹世尊如之見一味已入
于滅度度諸未度究竟滅度令至
法味到無恐懼使得解脫化於衆
三 十
樂畜育將護悉令普至於諸通慧
達賢聖法亦如向者迦葉所說世
義所趣以偈頌曰
仁和爲法王 爲衆生說法
意勇建大業 久立分別說
悉庶無所言 法王慧難解
山西平陽府蒲州河津縣百底里捨綿信士張世英
衆生懷狐疑 則棄所住處
如本力所任 又示諸利義

図13 同 IV

宗鏡録卷第五　　阿五

慧日永明寺主智覺禪師　延壽　集

夫真心靡易妙性無生凡聖同倫云何說妄各本心湛寂絶相離言性雖自爾以不守性故隨緣染淨且如一水若珠入則清塵雜則濁又如一空若雲遮則昏月現則淨故大智度論云譬如清淨池水在象入中令其渾濁若清水珠入水即清淨不得言水外無象無珠心亦如是煩惱入故能令心濁諸慈悲等善法入心令心清淨然垢淨不定真妄從緣若昧之則念念輪迴遺失真性若照之則心心寂滅圓證涅槃故知真妄無因空有言說約真無說約說無真皆是狂迷情想建立千迷競起空迷演若之頭一法纔生唯現闍婆之影以含生不窮實際但徇狂情則諸聖俯順機宜悉同其事以權出權說妄而從妄旋真將麤接麤舉相而因相通性甚不執妄尚不說真幻影纔消智光息燄首楞嚴經云佛告阿難精眞妙明本覺圓淨非留生死及諸塵垢乃至虛空皆因妄想之所生起斯元本

図14　函号函次併記例

佛遺教經論疏節要并序　　冊五

晉水沙門　淨源　述

夫化制互陳戒定齊舉莫大乎遺教經焉推徵解釋開誘行業莫深於馬鳴論矣然則論主發揮遺教亦猶龍樹啓明大品歟彼則融有而即空此乃扶律以詮定是故中夜三唱圓戒珠以嚴身上士七科滋法乳而延命既而寡尤寡悔二乘由是而功成即事即心三賢於斯而果滿非夫至聖最後垂範者則安能至於茲乎在昔羅什法師既翻于經而真諦三藏續譯于論故得有唐太宗降乎勑命永懷聖教用思弘闡而辭林載之昭昭然若懸日月於太清令萬物之咸覩也至若昔賢通經雖具章門而綿歷歲時罕有傳者近世孤山尊者仰經述疏多遵台教遂使興宗思而不學抑又真悟律師以論注經雖不忘本而皆存梵語闕譯華言淨源久慨斯文流芳未備於是翻經論之格訓集諸家之奥辭庶乎後裔皆受其賜耳

二別釋經文二初釋名題二解文義今初

佛遺教經注曰經題有通別二名佛遺教別

図15　初入蔵経典　I　（佛遺教経論疏節要　巻首）

宗門統要續集序　　漢一

　　徑山興聖萬壽禪寺住持沙門　希陵撰

靈鷲拈花之旨獨付飲光少林得髓之傳惟稱可祖西竺聖師授受同印乎一心東土宗派流分各顯其大用不歷漸階之次直躋聖地之歸自五葉傳芳千燈續焰正法眼流通

漢一

於震旦盛矣哉其有機緣啓投鍼之契問答湊激電之馳傳燈諸録載之詳備統要收亦綸貫耳是以古林禪師以透古今眼具通變機系後來提唱宗師續前代統要玄旨執金鉾而刮衆膜握寶劒而斷群疑若不顯龍驤虎驟之機安知有玉振金聲之作蓋紀實以傳信非潤色之虛文也延祐庚申謹序

図16　同　II　（宗門統要續集　巻第一巻首）

汾州首山念禪師法嗣一十六人

汾陽善昭禪師　葉縣歸省禪師
神鼎洪諲禪師　谷隱蘊聰禪師
廣慧元璉禪師　三交智嵩禪師
鐵佛智嵩禪師　首山懷志禪師

合一

仁王處評禪師　智門迥罕禪師
鹿門慧昭山主　丞相王隨居士已上一十二人見録
黃蘗重謚禪師　福聖善瑫禪師
南臺契曠禪師　契聰上座已上四人不録

首山念禪師法嗣

汾州太子院善昭禪師太原俞氏子器識沉邃少緣飾有大智於一切文字不由師訓自然通曉年十四父母相繼而亡孤苦厭世俗

図17　同　III　（続伝燈録　巻第一巻首）

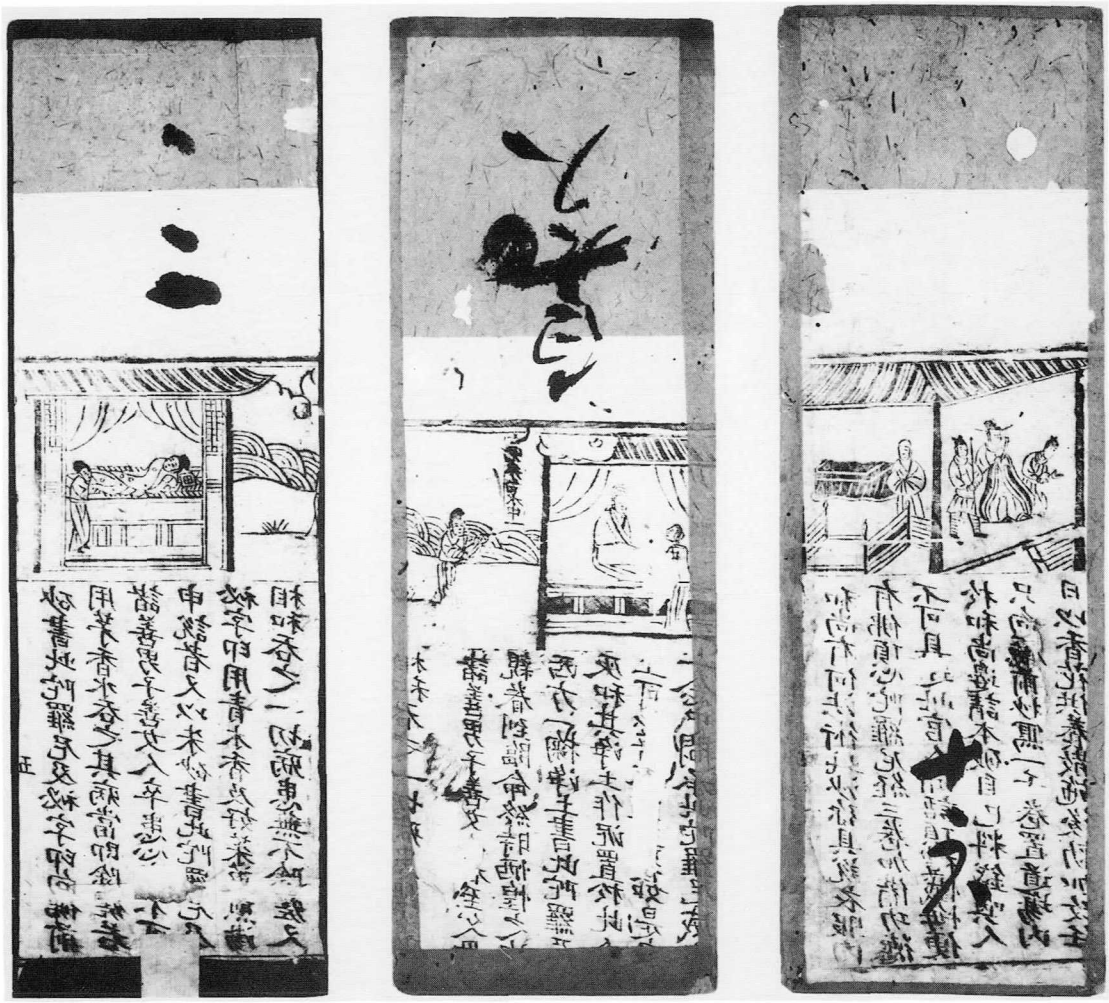

図18　表紙の裏打ちに使用された他の書籍例　I

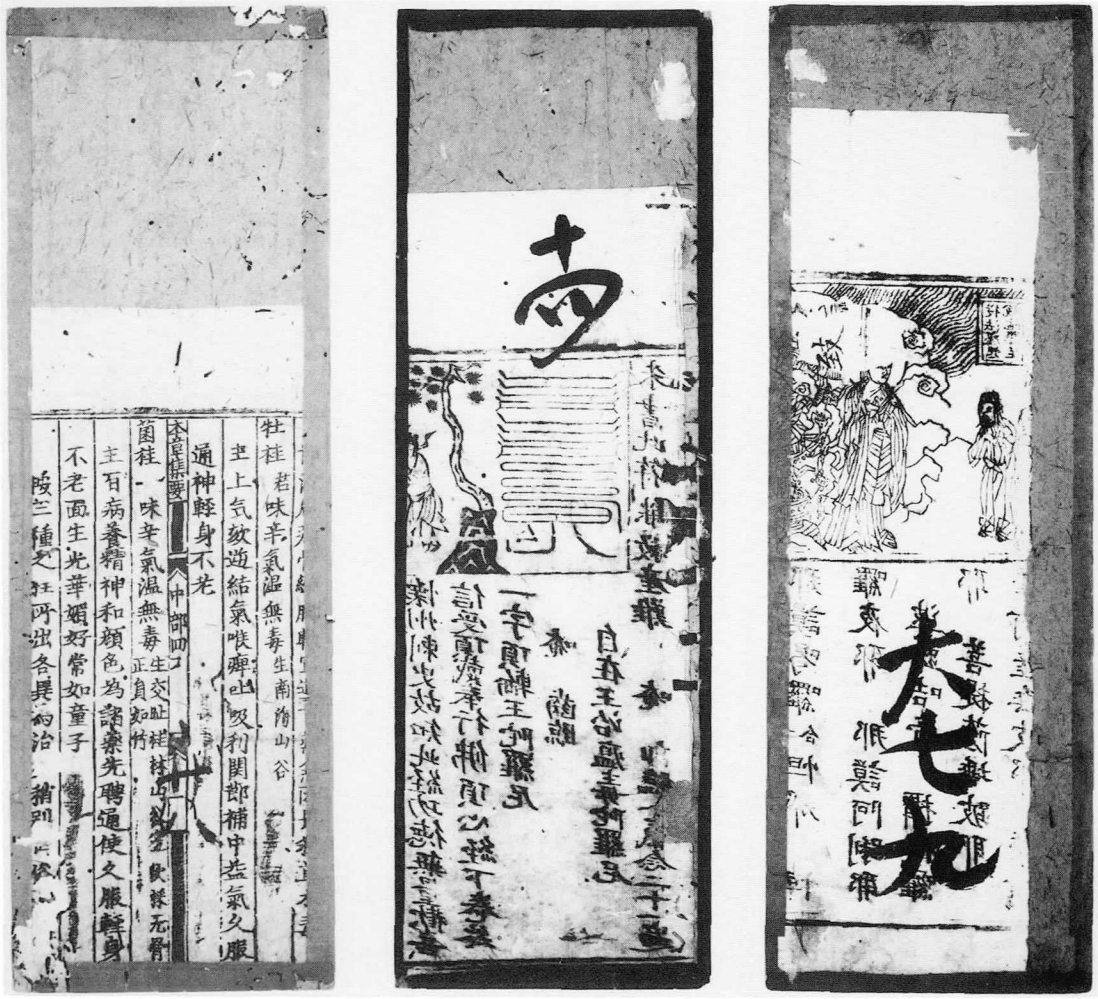

図19　同　II

序

仏教聖典がはじめて作成されたのは、釈尊入滅直後のときであると伝えられるが、爾後長期にわたっておびただしい数の経・論がインド本土で編纂され、アジアの各地に伝播・普及されて行ったのである。インドにおける聖典の用語はサンスクリット（梵語）・パーリ語が主であるが、その他のアジア各地ではそれぞれの民族の用語に聖典が飜訳された。その代表は漢語とチベット語による飜訳である。数多い仏教聖典は、三蔵・大蔵経・一切経などの名のもとに叢書として一括して伝えられている。パーリ語の三蔵・漢訳大蔵経・チベット語訳大蔵経・モンゴル語の大蔵経などがこれである。サンスクリット聖典はインド本土で仏教が早く亡びた関係上、まとまった形では伝えられていない。われわれに親しいのは漢訳大蔵経であって、中国・朝鮮・日本など漢字文化圏で広く用いられ信仰されて来たものである。こうした聖典は先人の血のにじむような努力によって伝持されたのであった。はるばる海を渡り山を越え砂漠を横ぎり、艱難辛苦の末に、経典を求め得た話、不運にして中途で難に遭いついに落命に及んだ悲話、あるいは仏法を護持するためにはげしい迫害に耐え身命を捨てることも辞さなかった話、こうした挿話が過去の史実を伝えるものとして今日多く残されているのである。大蔵経はまさにアジア諸民族の偉大な文化遺産というだけでなく、そのはげしくきびしい精神活動の軌跡を、現実にわれわれの目の前に描いて見せているものであるということができよう。

中国へは二世紀中葉に経典が伝訳されたのがはじめであるが、以後つぎつぎと経・論が訳出され、それは十一世紀頃（北宋時代）まで続いた。この経・論の伝訳は、はじめは大蔵経としての組織を持ったものでなく、個々ばらばらにいわば無秩序になされたものであったが、六世紀頃になると訳出経論の数が非常に増えたので、経録（衆経目録）を作ってそれを整理するようになった。これをきっかけにして大蔵経の蒐集・編纂が行なわれたのである。大蔵経の編纂は南北朝時代の諸王朝でなされたが、それを完成したのは隋・唐の王朝であって、国家的事業として遂行されたのである。八世紀頃には中国人の撰述した著作も、これに加えるようになった。

大蔵経の開版・印刷は十世紀末頃から行なわれた。北宋の太祖が木版による開版を命じ、九八三年に完成したのがこのはじめである（いわゆる蜀版）。以来、高麗・契丹・金・南宋・元・明・清の各時代にそれぞれ開版・刊行がなされた。

わが国では木版印刷は平安朝末頃から行なわれるようになったらしいが、それは信仰や学問の対象となった重要な経論にかぎってなされたのであって、大蔵経全体の開版は、ずっと時代が下って江戸時代になってからであった。すなわち天海による寛永寺版、鉄眼による黄檗版の出版がこれである。明治以降は新しい印刷技術と新しい分類法に基づいて、縮刷大蔵経・卍蔵経・大正新脩大蔵経などが編纂された。大正新脩大蔵経はもっとも内容が充実し、学術的価値の高いものである。

中国で開版刊行された大蔵経の主要なものはわが国にもたらされている。その所在はすでに調査されていると思うが、明開版のものは甚だ少いのである。明王朝においては、北京で開版された北蔵と、南京で開版された南蔵との二種の大蔵経が刊行されているが、このほどわが立正大学図書館には、南蔵の一部が所蔵されていることが判明した。これは「解説」に詳しく述べているように、刊行年次の古い点において甚だ貴重であり、資料的価値の高いものである。今回わが図書館員の努力によって緬密な調査が行なわれその目録が公表された。一読して分るように、その実態を明示するために、色々の面から周到な分析を試みた報告書であって、学術的に意義深いものと信ずる。これによってわが立正大学図書館の蔵書の価値が明かにされたとともに、大蔵経版本の研究が大きく進展したことを喜ぶものである。

平成元年一月吉日

立正大学図書館長　勝呂信静

凡例

一、本書は、立正大学図書館に所蔵している中国明代以降の仏教典籍中、南京報恩寺版大蔵経すなわち南蔵の目録及びその解説である。

一、本書は、先に作成された『立正大学図書館所蔵明代南蔵現存目録』（野沢佳美編、私家版、一九八七）の誤りや不備を訂正補足し、大幅に増補改訂したものである。なお、本書の解説については、野沢佳美氏に依頼した。

一、本南蔵は、既に裏打ちなどの補修が施されているが、本目録及び解説で使用した現存状況や数値などは、全て補修する以前のものである。

一、本南蔵中には、破損により表紙のみ、もしくは数張しか現存していない巻があるが、便宜上一巻として取り扱った。

一、目録中の典籍番号は、『昭和法宝総目録』（大正新脩大蔵経刊行会、一九七九）第二巻所収の『大明三蔵聖教南蔵目録』のそれに拠った。

一、経典名などの文字は、正字・略字・俗字などが使用されており、また同一文字でも一定しないものが多い。できるだけ原典の字体に従ったが、略字は活字の都合から適宜正字を使用し、また「經」「乘」「卷」「觀」などは、巻によっては略字や俗字を使用するなど不統一なので、適宜いずれかに統一した。

一、訳撰者は、各経典ごとにその全てを記した。ただし、経典が異なっても訳撰者が同一の時は、次巻以降を「同右」とした。なお、数巻に及ぶ経典は、初出を採り以下を省略したが、例えば『廣弘明集』（本目録通番二二八～二五六）のように、同一経典内で訳撰者の表記が異なる時は、繁を厭わずその都度原典どおり記した。従って訳撰者が記されてない巻は、その直前の記された巻の表記と同一のものとする。

一、張数欄に付された（）付きのアラビア数字は、その張以降が破損して現存しないことを示す。

一、扉絵の有無は○印で示したが、補刻された扉絵は◎印で示した。
一、経鋪は、解説中で表記したアルファベットで示した。
一、印記は、解説中で表記したアルファベットで示した。なお本経典の全体には、当初の所蔵寺である法住寺の朱印が押印されているが、いちいち表記しなかった。
一、巻末に音釈が付されているものは○印で示した。
一、刻工者名は、判読可能なもののみを記し、俗字・略字はできるだけ正字を使用した。また（　）付きの数字が付された人名は、その版木を補刻した人物で、その名がその数字の版木の版心などに確認されることを示している。
一、巻首巻末の序・跋の有無、後人の補筆、虫害・破損状況などについては、備考欄にその旨記した。なお各函号の最終巻には、同経典を閲覧した段天章がたとえば「乾隆〇〇年〇月〇日長治県小辛庄民段天章閲看」などと墨書しているが、備考欄ではその年月日を記し、以下は省略した。その他の人物の墨書箇所については、解説中に一括した。
一、内題と、題簽に記されている経典名が異なるときは、その旨備考欄に記した。
一、本南蔵の個々の経典に対応する『大正蔵』の所収巻数・経典番号を付し、利用の便に供した。なお、空白箇所は『大正蔵』未収録の経典を意味する。
一、本南蔵は、マイクロフィルム化され、全22巻に収録されているが、各経典が収録されているマイクロフィルムのリール数を最下段に示し、閲覧の便に供した。
一、本書末の索引では、経典名の冒頭に付された「佛説」を省略し、同名経典の場合は訳撰者を記して区別した。また経典名の読みは、『佛書解説大辞典』（大東出版社）に拠った。
一、本南蔵中最も重要と思われる『古尊宿語録』を、本書の別冊として影印刊行した。

目次

図版 …… I
序 …… I
凡例 …… III
目録 …… 1
解説 …… 69
索引 …… 87

目

録

通番	典籍番号	函号 帖次	経典名（訳撰者）	張数	扉絵	経鋪	印記	音釈	刻工者名	備考	大正蔵 Vol.	大正蔵 No.	リール No.
001	27	服四	佛説普門品經（西晉太康年竺法護譯）	10				○	信士許普成、比丘滿起、	補筆あり、	11	315	①
002	28	〃五	文殊師利佛土嚴淨經　巻上（西晉竺法護譯）	16				○	信士許普成、比丘滿起(五)、司礼監官劉思忠監刊（十）、周保児、	補筆あり、	〃	318	〃
003		〃六	〃　巻下	16					陸阿関、比丘滿起、羅景先、張、	補筆あり、	〃	〃	〃
004	29	〃七	佛説胞胎經（西晉三藏竺法護譯）	13			b c	○	肖□児、	虫害、補筆あり、	〃	317	〃
005	30	〃八	佛説法鏡經　巻上（後漢安息國優婆塞安玄共沙門嚴佛調譯）	11				○		巻首に呉三藏沙門康僧會撰の「法鏡經序」あり、	12	322	〃
006		〃九	〃　巻下	11		E		○		補筆あり、	〃	〃	〃
007	33	衣七	佛説離垢施女經（西晉太康年竺法護譯）	21				○	弓、易子文、何宗大、王□、丘□□、	虫害、	〃	338	〃
008	40	裳一	得無垢女經（元魏婆羅門般若流支譯）	24	○			○	陳通、袁大、再生、同七、楊么児、董子名、張彦質、安住、何敬得、	虫害、	〃	339	〃
009	52	推八	勝鬘師子吼一乗大方便方廣經（劉宋天竺三藏法師求那跋陀羅譯）	17					簡、梁思□、呉剛、	補筆あり、	〃	353	〃

010	80	戎一	大方廣佛華嚴經　巻第十四（罽賓國三藏般若奉詔譯）	12	○			忠、張、肖壽僧、□文通、何宗大、彦、	破損、補筆あり、	10	293	①
011	〃	〃二	〃　巻第十五	(13)				恭、寧、阿□、張、王、		〃	〃	〃
012	117	被五	普曜經　巻第三（西晉三藏法師竺法護第二譯）	14			○		補筆あり、	3	186	〃
013	122	木一	正法華經　巻第一（西晉三藏竺法護第三譯）	25	○		○	関、胡、呉、	虫害、補筆あり、	9	263	〃
014	〃	〃二	〃　巻第二	16			○	葉？道、	虫害、補筆あり、	〃	〃	〃
015	〃	〃三	〃　巻第三	21			○	劉思忠重刊、御用監奉御俞隆、胡受、覺城寺僧圓曉真鈴（九）、山西平陽蒲州川津県百底里捨板信士張世興（十）、	虫害、破損、補筆あり、	〃	〃	〃
016	〃	〃七	〃　巻第七	(1)					表表紙及第一張の第一～第三折のみ、	〃	〃	〃
017	〃	〃八	〃　巻第八	15		a	○	彭如宗、游冥、	虫害、補筆あり、	〃	〃	〃
018	〃	〃十	〃　巻第十	21		C	○	張、占再□、楊、李、王黒里、	虫害、「乾隆五十年正月廿一日…」、補筆あり、	〃	〃	〃

027	026	025	024	023	022	021	020	019
199—202	193	167	140	〃	〃	〃	〃	132
〃 四	貞 一	敢 一	髪 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	盖 四
佛説彌勒下生經 （姚秦三藏法師鳩摩羅什第三譯） 佛説彌勒來時經 （失譯師名開元録附東晉第四譯） 彌勒下生成佛經 （唐武周三藏法師義浄奉制第六譯）	觀無量壽佛經	佛説解節經 （陳天竺三藏法師真諦譯）	入定不定印經 （三藏法師義浄奉制譯）	〃　巻第八	〃　巻第七	〃　巻第六	〃　巻第五	妙法蓮華經　巻第四 （隋天竺闍那崛多共達摩笈多添品譯）
20		9	16	13	16	20	(15)	22
		○						
						m	n	
○			○					
倪、王、興児、福、黄安 俚、		魁、丙仔、彭、	□宗善、徳進、魏、	劉、次、周阿孫、聶、□ 驢、	丘孟辛、鄭孟絃、王万九、 達、王真官、呉□、	徐本、劉住□、呉良清、 中、占、楊瓊初、戴□、	李文祥、□茂真、弟俚、 楊、□海、	劉世□、高受、添里、余 善□、宋員一、趙継祖、 鄧□受、
巻首巻末破損、題簽「四 經同巻」、補筆あり、	破損、張数不明数張あり、	虫害、破損、	巻首に御製「唐武周新翻 三藏聖教序」あり、	題簽は「巻第四」を「八」 に訂正す、補筆あり、	破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、		虫害、破損、補筆あり、
〃　〃　14	12	16	15	〃	〃	〃	〃	9
455　457　454	365	677	646	〃	〃	〃	〃	264
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	①

			觀彌勒菩薩下生經 （西晉月氏三藏竺法護単譯）								〃	453	①
028	205	〃 七	第一義法勝經	12				○	□啓、	表表紙及第一張の第一～第四折までなし、	17	833	〃
029	220—222	潔 九	佛説月光童子經 （西晉三藏法師竺法護譯） 申日兒本經 （劉宋天竺三藏法師求那跋陀羅第三譯） 佛説逝童子經 （西晉沙門法度支第四譯）	13					李斌、楊賢、	題簽「三經同巻」、補筆あり、	14 〃 〃	534 536 527	②
030	247—249	効 一	佛説善恭敬經 （隋天竺三藏法師闍那崛多譯） 稱讃大乗功徳經 （唐三藏法師玄奘奉詔譯） 説妙法決定業障經 （唐至相寺沙門智嚴譯）	13	○			○	玄佑、毛奴仔、	題簽「三經同巻」、補筆あり、	24 17 〃	1495 840 841	〃
031	254—257	〃 三	佛説銀色女經 （元魏天竺三藏法師佛陀扇多第二譯） 阿闍世王受決經 （西晉三藏沙門釋法炬譯） 採華違王上佛受決經 （東晉西域沙門竺曇無蘭譯） 佛説正恭敬經 （元魏天竺三藏佛陀扇多譯）	16			b		晏、漢経、呉、彦□、喩斗生、楊成、	題簽「四經同巻」、補筆あり、	3 14 〃 24	179 509 510 1496	〃
032	260	〃 五	無上依經　巻上 （梁天竺三藏法師真諦譯）	17				○	□頼仔刊、満仔、甘奉一、陽、符、鄧禄受、記名、	補筆あり、	16	669	〃

033	〃	〃 六	〃 巻下	12					○	劉弘成、劉関仔、朱景方、 李希廣、	補筆あり、	〃	〃	②
034	263—265	〃 八	貝多樹下思惟十二因縁經 （呉月支國優婆塞支謙譯） 佛説縁起聖道經 （大唐三藏法師玄奘奉詔譯） 佛説稻稈經 （失譯人名附東晉録）	13						朱、	題簽「三經同巻」、一行 二十字詰箇所あり、補筆 あり、	〃 〃 〃	713 714 710	〃
035	269—272	〃 十	佛説作佛形像經 （失譯師名附後漢録） 佛説龍施女經 （呉月支國優婆塞支謙譯） 佛説龍施菩薩本起經 （西晉三藏法師竺法護譯） 佛説八吉祥神呪經 （呉月支國優婆塞支謙譯）	10		B				文貴、胡弟児、万金?、 付玄仔、陳文得、	題簽「四經同巻」、「乾 隆五十年三月二十六日…」、 補筆あり、	〃 14 〃 〃	692 557 558 427	〃
036	277—280	才 二	如來獨證自誓三昧經 （西晉三藏法師竺法護譯） 佛説造立形像福報經 （失譯師名附東晉録） 佛説灌佛經 （西晉沙門釋法炬譯） 佛説灌洗佛經 （乞伏秦沙門釋聖堅譯）	14						呉、肖、	題簽「四經同巻」、一行 二十字詰箇所あり、補筆 あり、	15 16 〃 〃	623 693 695 696	〃
			佛説八陽神呪經 （西晉三藏竺法護譯）							孟、楊、	題簽「四經同巻」、	14	428	〃

037	038	039	040	041	042
281—284	285—289	311	〃	312	〃
〃 三	〃 四	必 十	〃 十一	改 一	〃 二
佛説八吉祥經（梁扶南三藏僧伽婆羅譯） 佛説八佛名号經（隋北天竺三藏法師闍那崛多譯） 佛説盂蘭盆經（西晉三藏法師竺法護譯）	佛説報恩奉盆經（失譯人名附東晉録） 佛説浴像功徳經（唐天竺三藏法師寶思惟譯） 浴像功徳經（唐三藏法師義浄奉詔譯） 佛説校量數珠功徳經（唐迦濕蜜羅國三藏寶思惟於福先寺譯） 曼殊室利呪藏中校量數珠功徳經（唐三藏法師義浄奉詔譯）	佛説孔雀王呪經　巻上（梁扶南三藏法師僧伽婆羅譯）	〃　巻下	佛説大孔雀呪王經　巻上（唐三藏法師義浄奉詔譯）	〃　巻中
10	10	17	21	15	21
				○	
			a	a	a
	○	○			○
	楊仲森、	付関生、胡受□、李普児、足仔、劉定保、	楊、黄安里、普児、劉□生、	鄭、迪、陳康孫、肖敬郎、	□道正、阮、鄭、迪、劉関住、
	題簽「五經同巻」、補筆あり、	虫害、破損、	虫害、破損、裏表紙なし、ムレ、	虫害、巻首破損、	虫害、
〃　〃　16	〃　〃　〃　17　〃	19	〃	〃	〃
430　431　685	686　697　698　788　787	984	〃	985	〃
②	〃	〃	〃	〃	〃

049	048	047	046	045	044	043
345	326・327	320—322	〃	〃	313	〃
莫七	〃十二	〃八	〃六	〃五	〃四	〃三
請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪經（東晉天竺居士竺難提譯）	種種雜呪經（宇文周世北天竺三藏闍那崛多譯） 佛頂尊勝陀羅尼經（唐朝散郎杜行顗奉制譯）	佛説摩利支天陀羅尼呪經（失譯人名開元附梁録） 佛説七俱胝佛母心大准提陀羅尼經（唐武周沙門地婆訶羅譯） 佛説七俱胝佛母准提大明陀羅尼經（唐天竺三藏金剛智譯）	〃 巻下	〃 巻中	佛母大孔雀明王經 巻上（特進試鴻臚卿開府儀同三司粛國公贈司空大興善寺三藏沙門謚大辯正大廣智不空奉詔譯）	〃 巻下
11	13	19	13	22	16	18
	C					
					a	a
○		○	○	○	○	
徳生、戴関堡、章、	先三、熊、彭道成、肖敬郎、	趙、金文敬、名観、胡、楊、彭、女□、	王□生、虞、	張、彦、劉、□仲文、黄忠、呉馬□、文貴、	王継?道、那、定保、化、	
補筆あり、	題簽「二經同巻」、虫害、「清乾隆五十年四月十五日…」、補筆あり、	題簽「三經同巻」、虫害、	虫害、補筆あり、	虫害、破損、	虫害、破損、巻首に「讀誦佛母大孔雀明王經前啓誦法」あり、補筆あり、	虫害、補筆あり、
20	19　21	〃　20　21	〃	〃	〃	〃
1043	967　1337	1075　1077　1256	〃	〃	982	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	②

050	367・368	忘六	諸德福田經（西晉沙門釋法立共法炬譯） 大方等如來藏經（東晉北天竺三藏法師佛陀跋陀羅譯）	15					景霖、夏己俚、余普通、那吒、日生、吳、	題簽「二經同卷」、破損、補筆あり、	16	683	②
051	383	罔九	除恐灾患經（乞伏秦沙門釋聖堅第二譯）	16				○	季真、周金、雇升保、熊、生存、何保年、		17	744	〃
052	384	〃十	觀世音菩薩得大勢菩薩受記經（劉宋黃龍沙門釋曇無竭於楊州第三譯）	13				○	許道児、楊保、恵、		12	371	〃
053	387	彼三	佛説海龍王經　卷第一（西晉太康年三藏法師竺法護譯）	18				○	童、吳五、時、占□生、	虫害、巻末破損、補筆あり、	15	598	〃
054	〃	〃四	〃　卷第二	18				○	何□得、左玄保、江万里、朱永成、羅仕文、	虫害、	〃	〃	〃
055	〃	〃五	〃　第卷三	18				○	王、余□立、民、彭、何□得、	虫害、破損、	〃	〃	〃
056	〃	〃六	〃　卷第四	18				○	肖平奴、程伏生、金童、	虫害、	〃	〃	〃
057	392	恃一	賢劫經	(16)					彦、詹宗善、華荘□、黃、保、戴道仔、章、	表・裏表紙及第一張の第一折なし、補筆あり、	14	425	③
058	419	染四	月上女經　巻下（隋三藏法師闍那崛多譯）	12					信士謝岩貴蕭妙善重刊(五)、司礼監官劉思忠監刊(六)、	補筆あり、	〃	480	〃

059	425	詩 十	佛説蓮華面經 卷下（隋三藏法師那連提耶舍譯）	11					○	乞仔、真郎、付安、趙五 ?、	虫害、破損、	12	386	③
060	488	維 四	佛説魔逆經（西晉太康年三藏法師竺法護譯）	18					○	鄭善、婁法保、徐仲□、楊么児、何宗大、□友成、	虫害、	15	589	〃
061	501—507	賢 一	佛為海龍王説法印經（唐三藏法師義浄奉制譯）	17	○				○	肖晋、葉、華、雇道奴、	題簽「七經同卷」、	〃	599	〃
			般泥洹後灌臘經（西晉三藏法師竺法護譯）									12	391	
			右遶佛塔功德經（唐于闐三藏實叉難陀譯）									16	700	
			佛説妙色王因縁經（唐三藏法師義浄奉制譯）									3	163	
			師子素駄娑王斷肉經（唐至相寺沙門智嚴譯）									〃	164	
			差摩婆帝受記經（元魏三藏菩提留支譯）									14	573	
			師子莊嚴王菩薩請問經（唐中天竺三藏法師那提譯）									〃	486	
062	511・512	〃 三	菩薩内習六波羅蜜經（後漢沙門嚴佛調譯）	13					○	蒲受、金童、比丘満起、□真、戴□、	題簽「二經同卷」、補筆あり、	17	778	〃
			菩薩投身飼餓虎起塔因縁經（北涼高昌沙門法盛譯）									3	172	
			佛説十二頭陀經（劉宋天竺三藏求那跋陀羅譯）							劉會、金童、鄔添里、鄭弟、蒋、鄧華□、	題簽「四經同卷」、「清乾隆五十年九月初四日…」	17	783	〃

063	530—533	〃 十二	佛説樹提伽經 （劉宋三藏求那跋陀羅譯） 佛説法常住經 （出安祐二録開元録云今附西晉録） 佛説長壽王經 （開元録云安祐二録並失譯師今附西晉第二出）	13		F					14 17 3	540 819 161	③
064	549	悪 一	起世因本經　巻第一 （隋三藏法師達摩笈多等譯）	18	○			○	楊賢、李、		1	25	〃
065	〃	〃 二	〃 巻第二	16				○	呉成、	補筆あり、	〃	〃	〃
066	554—556	積 八	佛説四諦經 （後漢沙門安世高譯） 佛説恒水經 （西晉沙門釋法炬譯） 佛説本相倚致經 （後漢沙門安世高譯）	13				○	□應通、頼仔、	題簽「三經同巻」、	〃 〃 〃	32 33 36	〃
067	579—581	福 八	佛説伏婬經 （西晉沙門法炬譯） 佛説魔嬈亂經 （失譯人名今附後漢録） 佛説弊魔試目連經 （呉月支優婆塞支謙譯）	15				○	楊、□仲字、	題簽「三經同巻」、	〃 〃 〃	65 66 67	〃
068	582—584	〃 九	泥犂經 （東晉三藏竺曇無蘭譯） 優婆夷墮舍迦經 （失譯人名今附宋録） 佛説齋經 （呉黄武年優婆塞支謙譯）	17				○	楊□仔、□関住?、	題簽「三經同巻」、巻末に「南寨請福字函看畢依旧安在本処恐(以下欠)」の墨書あり、	〃 〃 〃	86 88 87	〃

069	585—587	〃十	佛説廣義法門經（陳三藏法師真諦譯） 佛説戒德香經（東晉天竺三藏竺曇無蘭譯） 佛説四人出現世間經（宋天竺三沙門求那跋陀羅譯）	13				○		高寓、彭□端、	題簽「三經同卷」、	〃	2	〃	116	97	③
070	643	善二	治禪病秘要經　巻上（北涼世安陽侯沮渠京聲譯）	14				○		李、永安、□名、潘卞得、□支生、	破損、虫害、補筆あり、	15	〃	620	〃
071	644	〃四	摩登伽經　巻上（呉沙門竺律炎共優婆塞支謙譯）	11				○			虫害、破損、	21	1300	〃
072	646	〃八	修行本起經　巻上（後漢沙門竺大力共康孟祥譯）	15				○		彭、高友直、□奇生、	表表紙及第一張～第三張の第四折までなし、補筆あり、	3	184	〃
073	〃	〃九	〃　巻下	17				○		呉、徐原保、		〃	〃	〃
074	647—649	〃十	鬼問目連經（後漢安息三藏安世高譯） 雜藏經（東晉釋法顯譯） 餓鬼報應經（失譯人名附東晉録）	17				○		毛、方伏生、隹仲只刊、章豪、	題簽「三經同卷」、補筆あり、	17	〃	734	〃	745	〃	746
075	650—653	〃十一	阿難問事佛吉凶經（後漢沙門安世高譯） 慢法經（西晉三藏釋法炬譯） 阿難分別經（乞伏秦沙門聖堅譯）	13			F	○		黄五、周保児、	題簽「四經同卷」、補筆あり、「乾隆五十年十一月十七日…」、	14	17	492	739	495	〃

	五母子經（呉優婆塞支謙譯）	沙彌羅經（安公云関中異經） 玉耶經（東晉西域沙門竺曇無蘭譯） 玉耶女經（失譯人名今附西晉録初出） 阿遬達經（宋天竺三藏求那跋陀羅譯） 摩鄧女經（後漢三藏法師安世高譯） 摩登女解形中六事經（失譯人名今附東晉録）	太子瑞應本起經　巻上（呉月支優婆塞支謙譯）	過去現在因果經　巻第一（宋三藏求那跋陀羅譯）	〃　巻下	〃　巻第二	〃　巻第三
		654—659	660	661	〃	〃	〃
		慶一	〃二	〃四	〃三	〃五	〃六
	14	15	15	21	14	22	24
		○					
		○	○	○	○	○	○
		周狗児、班道、宋賢、	劉鎖、	余俊?、李天児、楊成、劉生、□号、	趙□我、康、戴敏、	戴敏、射真、呉荒、班道、沈徳、呉成、朱祖保、	李、侯暹、黄礼、李佛、孫成、
	破損、題簽「六經同巻」、虫害、補筆あり、		虫害、破損、	虫害、破損、	虫害、破損、	虫害、補筆あり、	虫害、破損、補筆あり、
	14	17	2	〃	〃	〃	〃
	555	750	143	142	141	189	185
	③	〃					

087	086	085	084	083	082
726—729	720—723	676—678	663	662	〃
〃 七	孝 五	尺 七	〃 九	〃 八	〃 七
佛説大魚事經 （同右） 阿難七簿經 （同右） 佛説呵鵰阿那含經 （同右）	佛説年少比丘説正事經 （西晉沙門釋法炬譯） 佛説沙曷比丘功德經 （同右） 佛説時非時經 （天竺三藏法師若羅嚴譯） 佛説自愛經 （東晉西域沙門竺曇無蘭譯）	佛説五苦章句經 （東晉三藏竺曇無蘭譯） 佛説堅意經 （後漢三藏安世高譯） 佛説淨飯王般涅槃經 （宋居士沮渠京聲譯）	佛説奈女耆婆經 （同右）	佛説奈女耆域因緣經 （後漢安世高譯）	〃 巻第四
13	11	19	12	16	23
				F	
○	○	○		○	
毛好仔、斗生、戴恵徳、		李周、彭暉、忠、華益、 楊子文、	黄、童、周保児、	王官、楊清、往景先、諶 恵、□蛮、	黄礼、李進、成信、肖□ 虫、曽、呉良清、
題簽「四經同巻」、補筆 あり、	題簽「四經同巻」、	題簽「三經同巻」、	虫害、補筆あり、	虫害、「清乾隆五十年十 一月廿二日…」、	虫害、破損、補筆あり、
〃　14　4	〃　17　〃　〃	14　〃　17	〃	14	〃
538　494　216	742　794　501　502	512　733　741	554	553	〃
〃	〃	④	〃	〃	③

			佛説燈指因縁經（姚秦三藏法師鳩摩羅什譯）							16	703	④
088	730—732	〃 八	佛説婦人遇辜經（乙伏秦釋聖堅譯） 佛説四天王經（宋涼州釋智嚴共寶雲譯） 佛説摩訶迦葉度貧母經（宋三藏法師求那跋陀羅譯）	8				○	題簽「三經同巻」、補筆あり、	14 15 14	497 590 571	〃
089	737—740	〃 十	佛説耶祇經（宋居士沮渠京聲譯） 佛説末羅王經（同右） 佛説摩達國王經（同右） 佛説旃陀越國王經（同右）	7		F		○	題簽「四經同巻」、「乾隆五十乙年正月十五日…」、補筆あり、	〃 〃 〃 〃	518 519 517 542	〃
090	741—743	當 一	佛説五恐怖世經（同右） 佛説弟子死復生經（同右） 佛説懈怠耕者經（同右）	8	○			○	題簽「三經同巻」、虫害、破損、	〃 17 24	827 826 1481	〃
091	744・745	〃 二	佛説辯意長者子所問經（元魏沙門釋法場譯） 無垢優婆夷問經（元魏婆羅門瞿曇般若流支譯）	11				○	題簽「二經同巻」、虫害、破損、補筆あり、	〃 14	578 544	〃

092	746—750	〃 三	佛説賢者五福經（西晉河内沙門白法祖譯）	8						題簽「五經同巻」、虫害、	17	777	④
			天請問經（唐三藏沙門玄奘奉詔譯）								15	592	
			佛説護浄經（失譯人名今附東晉録）								17	748	
			佛説木槵經（同右）								〃	786	
			佛説無上處經（同右）								〃	800	
093	751	〃 四	佛説因縁僧護經（同右）	19				○	何、曾□祁、	虫害、破損、	〃	749	〃
094	752	〃 五	盧至長者因縁經（同右）	10				○		虫害、	14	539	〃
095	753—756	〃 六	佛説五王經（同右）	12				○	阮、静安、	題簽「四經同巻」、虫害、破損、「佛説頞多和多耆經」の「頞」は内題では「頬」に作る、	〃	523	〃
			佛説出家功徳經（失譯人名今附三秦録）								16	707	
			佛説栴檀樹經（失譯人名今附漢録）								17	805	
			佛説頞多和多耆經（失譯人名今附西晉録）								〃	740	
			佛説普達王經（同右）						未、周、	題簽「四經同巻」、虫害、破損、	14	522	〃

098	097	096
771—775	761—765	757—760
〃 十	〃 八	〃 七
長爪梵志請問經 （唐三藏法師義淨奉制譯） 佛說譬喻經 （同右） 佛說比丘聽施經 （東晉沙門竺曇無蘭譯） 佛說略教誡經 （唐三藏法師義淨奉制譯） 佛說療痔病經 （唐三藏法師義淨譯）	佛說孫多耶致經 （吳月支優婆塞支謙譯） 佛說父母恩難報經 （後漢沙門安世高譯） 佛說新歲經 （東晉沙門竺曇無蘭譯） 佛說羣牛譬經 （西晉沙門法炬譯） 佛說九横經 （後漢沙門安世高譯）	佛滅度後棺斂葬送經 （同右） 佛說鬼子母經 （同右） 佛說梵摩難國王經 （同右）
8	10	10
F		
○	○	○
題簽「五經同卷」、虫害、「乾隆五十一年正月十七日…」、	題簽「五經同卷」、虫害、	
21 / 17 / 14 / 4 / 14	2 / 4 / 1 / 16 / 〃	14 / 21 / 12
1325 / 799 / 504 / 217 / 584	150 / 215 / 62 / 684 / 582	521 / 1262 / 392
〃	〃	④

099	803	忠二	妙法聖念處經　巻第一・二 （宋西天中印度摩迦陀國那爛陀寺三藏傳教大師賜紫沙門臣法天奉詔譯）	16		劉守、周阿孫、劉中、	題簽「妙法聖念處經一二同巻」、補筆あり、	17 722	④
100	〃	〃三	〃　巻第三・四	17		劉恵智、羊今保、継祖、劉道、	虫害、題簽「妙法聖念處經三四同巻」、補筆あり、	〃 〃	〃
101	〃	〃四	〃　巻第五・六	17	○	胡、潘、能?、劉志中、劉中、	虫害、題簽「妙法聖念處經五六同巻」、	〃 〃	〃
102	810	盡三	十二縁生祥瑞經　巻上・下 （西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳法大師臣施護奉詔譯）	15		雇、劉、	題簽「十二縁生祥瑞經上下同巻」、	16 719	〃
103	811—813	〃四	佛説目連所問經 （西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳教大師臣法天奉詔譯） 外道問聖大乘法無我義經 （同右） 毘倶胝菩薩一百八名經 （同右）	8		呈、昴、	題簽「三經同巻」、	24　17　20 1468　846　1114	〃
104	814・815	〃五	讃揚聖德多羅菩薩一百八名經 （西天中印度惹爛駄囉國密林寺三藏明教大師賜紫沙門天息災奉詔譯） 聖觀自在菩薩一百八名經 （宋三藏明教大師賜紫沙門天息災奉詔譯）	9		翁、弓、	題簽「二經同巻」、	〃　〃 1106　1054	〃
105	816	〃六	勝軍化世百喩伽他經 （同右）	12	○	呈伏□、黄、得昇、楊保、弓妙音、	題簽「二經同巻」、	32 1692	〃

	109			108	107	106			105
	830—832			〃	821	818—820			817
	命二			〃九	〃八	〃七			〃六
佛説尊勝大明王經（同右）	佛説普賢菩薩陀羅尼經（宋三藏大師法天奉詔譯） 大金剛妙高山樓閣陀羅尼（宋三藏大師施護譯） 廣大蓮華莊嚴曼拏羅滅一切罪陀羅尼經（西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳法大師臣施護奉詔譯）			〃　卷第三・四	妙臂菩薩所問經　卷第一・二（西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳教大師臣法天奉詔譯）	佛説苾芻五法經（西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳教大師法天奉詔譯） 佛説苾芻伽尸迦十法經（宋三藏傳教大師法天奉詔譯） 諸佛心印陀羅尼經（同右）			六道伽陀經（宋三藏傳教大師賜紫沙門法天奉詔譯）
	19			18	23	9			
	d								
	○				○				
謝、張、	黄、陸阿閔、			世魁、胡善、右顯、	受仔、鄧、華三、劉敬、	弓妙音、黄、			
題簽「三經同巻」、補筆あり、	題簽「三經同巻」、			題簽「妙臂菩薩所問經三四同巻」、	題簽「妙臂菩薩所問經一二同巻」、	題簽「三經同巻」、			
21	20	21	20	〃	18	19	〃	24	17
1413	1116	1415	1127	〃	896	919	1480	1479	725
〃	〃			〃	〃	〃			④

114	113	112	111	110
863	857・858	853—856	850・851	836—838
深十一	〃十二	〃十一	臨九	〃三
佛説七佛經（同右）	佛説大三摩惹經（西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚卿明教大師臣法天奉詔譯） 佛説月光菩薩經（同右）	佛説聖觀自在菩薩梵讃（同右） 佛一百八名讃（宋三藏法師法天奉詔譯） 佛説布施經（宋三藏法師法賢奉詔譯） 佛説聖曜母陀羅尼經（宋西天三藏大師法天奉詔譯）	佛説長者施報經（朝散大夫試鴻臚卿明教大師臣法天奉詔譯） 佛説毘沙門天王經（同右）	佛説智光滅一切業障陀羅尼經（同右） 佛説如意寶摠持王經（同右）
11	10	10	14	9
	F			
		○		
司礼監劉忠、毛奴仔、信官石泰（九・十）、	郭仲勉、李、	李支生、信士劉昌仁男漢琳刊板一塊、何覺剛（八）、	永安、虞亮、童、	
虫害、破損、	題簽「二經同卷」、「乾隆五十一年二月初四日…」、	題簽「四經同卷」、破損、補筆あり、	題簽「二經同卷」、	
1	3　1	21　16　32　20	21　1	〃　〃
2	166　19	1303　705　1679　1055	1245　74	1404　1398
〃	〃	〃	〃	④

115	116	117	118
926	927—930	931・932	939—942
興 七	〃 八	〃 九	〃 十
大正句王經 巻上・下（西天譯經三藏朝散大夫試光祿卿明教大師臣法賢奉詔譯）	佛説頻婆娑羅王經（西天譯經三藏朝散大夫試光祿卿明教大師臣法賢奉詔譯） 佛説人仙經（同右） 佛説舊城喩經（三藏法師法賢奉詔譯） 佛説信解智力經（西天譯經三藏朝散大夫試光祿卿明教大師臣法賢奉詔譯）	佛説善樂長者經（同右） 佛説聖多羅菩薩經（同右）	佛説一切如來名号陀羅尼經（同右） 佛説息除賊難陀羅尼經（三藏法師法賢奉詔譯） 佛説法身經（同右） 佛説信佛功德經（西天譯經三藏朝散大夫試光祿卿明教大師臣法賢奉詔譯）
14	22	8	15
			F
○			
汪春□、史□俚、	呉、	黄、	
題簽「二經同巻」、虫害、	題簽「四經同巻」、虫害、	題簽「二經同巻」、虫害、	題簽「四經同巻」、「乾隆五十二年二月初十…」、
〃	17 16 〃 〃	20 21	1 17 〃 21
45	802 715 9 41	1104 1380	18 766 1405 1350
④	〃	〃	〃

119	120	121	122	123	124	125	126	127															
978	983	1068	1077	〃	〃	〃	〃	〃															
馨六	〃十	言一	誠一	〃二	〃三	〃四	〃五	〃六															
佛説福力太子因縁經　巻第一・二・三（西天譯經三藏朝散大夫試光禄卿傳法賜紫沙門臣施護等奉詔譯）	十一面觀自在菩薩心密言念誦儀軌經　巻上・中・下（特進試鴻臚卿大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯）	佛説頂生王因縁經　巻第一・二・三（西天譯經三藏朝奉大夫試光禄卿傳法大師賜紫沙門臣施護等奉詔譯）	賢愚因縁經　巻第一（元魏沙門慧覺在高昌郡譯）	〃　巻第二	〃　巻第三	〃　巻第四	〃　巻第五	〃　巻第六															
18	22	21	23	24	15	22	16	21															
		○	○																				
	F																						
			○	○	○	○	○	○															
	呉、普成、付足仔、馮、	張馬孫、徐、許道児、黄巣？生、何、	熊真□、劉、李、□仔、福、敖、牙仔、周羅児、茂真、	劉尚兼、弓、目生、黄、劉和、李云、鄭、旭陽、先三、王継？道、足仔、	康敬一、黄安俚、寅仔、李、呉、劉恵、	茂真、李啓二、陳□保、呉、陳光、王保、	呉驢、楊、連、普成、劉□受、	金社右、余普通、定保、黄、王継？道、付足仔、楊仲森、李四、劉尚兼、															
虫害、破損、題簽「佛説福力太子因縁經一二三同巻」、	虫害、「乾隆五十一年二月廿二日…」、	虫害、題簽「佛説頂生王因縁經一二三同巻」、	破損、	破損、	虫害、補筆あり、	補筆あり、	虫害、	虫害、															
3	20	3	4	〃	〃	〃	〃	〃															
173	1069	165	202	〃	〃	〃	〃	〃															
⑤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃															

137	136	135	134	133	132	131	130	129	128
〃	〃	〃	〃	1115	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十一	〃 十	〃 九	〃 八	基 七	〃 四	美 三	〃 九	〃 八	〃 七
〃 巻第五	〃 巻第四	〃 巻第三	〃 巻第二	阿育王傳　巻第一 （西晉安息三藏安法欽譯）	〃 巻第十三	〃 巻第十二	〃 巻第九	〃 巻第八	〃 巻第七
20	13	15	24	20	21	(20)	18	19	22
F							F		
	a								
	○	○	○	○	○		○	○	○
興五、弓、文貴、凌継保、鄭、孟、湯、瞿関保、貴八、阿□、陳文得、忽、趙官□、	薛、□尹立、伯福、林、郭景生、劉、弓、文貴、	仲文、林観保、胡弟児、蓼、文通、凌記保、黄□生、	呉□一、鐘、興玉、林観保、三保、葉？興、劉、黄忠、	胡弟児、朱文、忽、弓、文貴、凌受、陳子奇、余劉、	童、馬川？、高、徐、	仔兼、盛双、李佛、成、	道傳、王、興児？、保、黄、従、劉、沈、福、金社右、	□隆、李、□仔、付足仔、陳光、失観、王、寅仔、潘晋、熊、肖□、	付関生、貴、劉、和、王、失観、劉尚兼、夏□己俚、何受、
「乾隆五十一年五月初三日…」、補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、	表表紙及第一張～第二張の第三折までなし、補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	「乾隆五十一年四月十五日…」、虫害、補筆あり、		
〃	〃	〃	〃	50	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	2042	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑤

146	145	144	143	142	141	140	139	138
〃	〃	1343	〃	1325	1321・1322	〃	1289	1283
〃 八	〃 七	満 六	〃 七	離 六	弗 十三	〃 三	比 二	子 一
〃 巻第三	〃 巻第二	菩提資粮論　巻第一 （聖者龍樹本　比丘自在釋　隋天竺三藏達摩笈多譯）	妙法蓮華經優波提舍　巻上 （大乘論師婆藪槃豆釋　元魏北天竺三藏法師菩提留支共沙門曇林等譯）	妙法蓮華經論優波提舍　巻下 （大乘論師婆藪槃豆菩薩造　元魏天竺三藏法師勒那摩提共僧朗等初譯）	大般涅槃經論 （婆藪槃豆作　元魏沙門達磨菩提譯） 涅槃經本有今無偈論 （天親菩薩造　陳世天竺三藏真諦於廣州譯）	〃 巻下	佛説大愛道比丘尼經　巻上 （北涼失譯人名）	四分僧羯磨　巻上 （西太原寺沙門懷素集）
11	11	12	13	14	(15)	15	14	29
		a c						
						○	○	○
王崇?、呉、阮、敬之、	受仔、如□、	劉生、			劉十五、鉄観、	仲文、	周真保、	戴伏、黄原、万、兪得名、楊奉□、葉琦官、呉、許、祝、彭□保、
補筆あり、	補筆あり、	破損、題簽は「粮」を「糧」に作る、補筆あり、	虫害、	虫害、破損、補筆あり、	題簽「二論同巻」、破損、補筆あり、ムレ、	虫害、破損、	虫害、破損、	表表紙及扉絵なし、破損、
〃	〃	32	〃	〃	〃　26	〃	24	40
〃	〃	1660	1519	1520	1528　1527	〃	1478	1809
〃	〃	⑥	〃	〃	〃	〃	〃	⑤

156	155	154	153	152	151	150	149	148	147
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1344	〃	〃
〃 四	〃 三	〃 二	物 一	〃 十	〃 八	〃 七	逐 二	〃 十一	〃 九
〃 巻第十四	〃 巻第十三	〃 巻第十二	〃 巻第十一	〃 巻第十	〃 巻第八	〃 巻第七	大莊嚴經論 巻第二 （馬鳴菩薩造 姚秦三藏法師鳩摩羅什譯）	〃 巻第六	〃 巻第四
15	16	13	11	16	16	12	14	11	13
			○						
				C				C	
							a		b
○	○	○	○	○	○	○	○	○	
范名、陳号、文信?、馬川、張旺、周狗児、	劉庸、曹成、黄奴子、劉廣、曽三、陸阿、	中六、	周保、済成、王彬、沈真、	文英、羅、呉官生、兼益、	景生、胡弟児、	徐、	呉五、英、楊、呉□応、		鄧、妙音、弓、右顕、
虫害、補筆あり、	補筆あり、	虫害、補筆あり、	破損、補筆あり、	裏表紙なし、「乾隆五十一年九月初六日…」、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、	「乾隆五十一年九月初五日…」、補筆あり、	補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	4	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	201	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑥

166	165	164	163	162	161	160	159	158	157
1353	〃	1349	〃	1347	〃	〃	〃	1346	〃
爵六	〃十	〃九	〃五	移四	〃九	〃八	〃七	意六	〃五
辯中邊論　巻第二（世親菩薩造　唐三藏法師玄奘奉制譯）	〃　巻下	中邊分別論　巻上（天親菩薩造　陳三藏法師真諦譯）	〃　巻下	順中論　巻上（龍勝菩薩造　元魏婆羅門瞿曇般若流支譯）	〃　巻第九	〃　巻第八	〃　巻第七	大乘莊嚴經論　巻第六（無着菩薩造　唐三藏波羅頗迦羅蜜多羅譯）	〃　巻第十五
13	18	20	17	14	16	15	16	15	22
	C								
				a					
○	○	○	○	○				○	○
先、□義、能有、王子志、	何、周計生、毛、張本受、	陳、劉秋生、周監、徐克敬、余安立、	呉良靖、季、済、王恵観、	余安立、皂奴、毛安□、陳通、仲勉、	法仔、任保児、王以成、弓、簡、徐添、王已一、欒英一、	達、秦仲、徐成、何受、	陳阿孫、馮左保、李、馬型、簡、	義、馮左保、周金、沈、付、賢、	楊遇春、熊建、呉、羅景生、楊五？、魏佐、蘇進、万川、雇満、劉大貴、
題簽は「辯中邊論巻中」とする、補筆あり、	「乾隆五十一年九月十二日…」、補筆あり、		補筆あり、	巻首に「順中論翻譯記」あり、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、
〃	〃	31	〃	30	〃	〃	〃	31	〃
1600	〃	1599	〃	1565	〃	〃	〃	1604	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑥

167	1365・1367	都一	楞伽經唯識論（天親造 天竺三藏法師魏國昭玄沙門統菩提流支譯） 轉識論（陳天竺三藏法師真諦譯）	25	◎				劉、蓼得名、沈三、付、済一、彭、甘、人端、景清、	題簽「二論同巻」、巻首に「大乘唯識論序」あり、補筆あり、	31 〃	1588 1587	⑥
168	1365・1366	〃二	大乘唯識論（天親菩薩造 陳三藏法師真諦譯） 唯識二十論（世親菩薩造 三藏法師玄奘奉詔譯）	19				○	劉丕仔、陳、楊奉□、道、寅原山、音行、□生、李季一、	題簽「二論同巻」、補筆あり、	〃 〃	1589 1590	〃
169	1417	既五	阿毘曇甘露味論 巻上（尊者瞿沙造 曹魏代譯失三藏名）	23					信士武濱、呉、王安、蘇州府天宮寺定山（八）、	破損、補筆・圏点あり、	28	1553	〃
170	〃	〃六	〃 巻下	19				○	呉、	破損、補筆あり、	〃	〃	〃
171	1418	〃七	隨相論 巻上（徳慧法師造 陳天竺三藏真諦譯）	17				○	李荀、王、曹、熊許孫、孟旭、	破損、補筆あり、	32	1641	〃
172	〃	〃八	〃 巻下	15		D		○	季真、陳崇、善人呉覚傑○陳覚傑（十三）、陸政揚溥共施（十四）、	「乾隆五十一年十二月廿二日…」、補筆あり、	〃	〃	〃
173	1436—1438	書二	金剛針論（法稱菩薩造 三藏傳教大師法天奉詔譯） 菩提心離相論（龍樹菩薩造 西天譯經三藏朝奉大夫試光祿卿傳法大師賜紫臣施護奉詔譯） 大乘破有論（同右）	17			m	○	王中安、呈、童、慶、廣、	題簽「三論同巻」、破損、	〃 〃 30	1642 1661 1574	⑦

179	178	177	176	175	174					
〃	〃	1444	〃	1443	1439—1442					
〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三					
〃 巻第五・六	〃 巻第三・四	大乘寶要義論　巻第一・二 （西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿傳梵大師賜紫沙門臣法護等奉詔譯）	〃 巻第三・四	佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論　巻第一・二 （三寶尊菩薩造　大域龍菩薩造本論　西天譯經三藏朝奉大夫試光禄卿傳法大師賜紫沙門臣施護等奉詔譯）	集大乘相論　巻上・下 （覺吉祥智菩薩造　西天譯經三藏朝奉大夫試光禄卿傳法大師賜紫臣施護奉詔譯） 六十頌如理論 （龍樹菩薩造　西天譯經三藏朝奉大夫試光禄卿傳法大師賜紫臣施護奉詔譯） 大乘二十頌論 （同右） 佛母般若波羅蜜多圓集要義論 （大域龍菩薩造　西天譯經三藏朝奉大夫試光禄卿傳法大師賜紫沙門臣施護奉詔譯）					
15	17	14	17	18	22					
呉中、張保仔、	劉十五、肖晋？、弓道済、受仔、	童、鄧、鉄観、胡、名、	謝真、肖平奴、意、李琦、王、趙継祖、	李琦、高受、宋賢、劉、鄔□里、弓妙音、	定、王、尭保、鄔□里、弓妙音、宋賢、鄧華三、謝真、					
題簽「大乘寶要義論五六同巻」、	補筆あり、題簽「大乘寶要義論三四同巻」、	題簽「大乘寶要義論一二同巻」、	補筆あり、	題簽「佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論一二同巻」、補筆あり、	題簽「三論同巻」、補筆あり、					
〃	〃	32	〃	〃	25	〃	30	32		
〃	〃	1635	〃	1517	1518	1576	1575	1637		
〃	〃	〃	〃	〃	⑦					

180	〃	〃	〃 九	〃 巻第七・八 (譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿光梵大師賜紫沙門臣惟淨等奉詔譯)	15			a	
181	〃	〃	〃 十	〃 巻第九・十	14		D		
182	1453	經	二	菩薩本生鬘論 巻第三・四 (聖勇護國尊者集 明教辯才法師充譯經三藏賜紫沙門臣紹德等奉詔譯)	18				
183	〃	〃	三	〃 巻第五・六 (寂變聖天造 〈以下同前〉)	21			a	
184	〃	〃	五	〃 巻第九・十	16				
185	〃	〃	六	〃 巻第十一・十二	17				
186	〃	〃	八	〃 巻第十四	11				
187	1454	府	七	大乘集菩薩學論 巻第十三・十四 (西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿宣梵大師賜紫沙門臣日稱等奉詔譯)	16			a	
188	1463	八	三	諸經要集 巻第三 (西明寺沙門道世字玄惲撰)	25				○
189	〃	〃	四	〃 巻第四	32				○

180	馬、江、子、童、呉、	破損、補筆あり、題簽「大乘寶要義論七八同巻」、	〃	〃	⑦				
181	高、江、馬亮之、胡、呈、襲道□、	「乾隆五十二年正月十一日…」、補筆あり、題簽「大乘寶要義論九十同巻」、	〃	〃	〃				
182	良記、徐、虞曾、王季三、欒五、王真、	題簽「菩薩本生鬘論三四同巻」、	3	〃	〃				
183	兪得名、宗善、占、陳海、思敬、姜、雍□容、周子義、劉、敬宗、文彬、	題簽「菩薩本生鬘論五六同巻」、	〃	〃	〃				
184	占、汪、曾子良、謝、陳文、李、彬、	題簽「菩薩本生鬘論九十同巻」、破損、補筆あり、	〃	〃	〃				
185	兼?、田奴、周景、王、曾子良、	題簽「菩薩本生鬘論十一十二同巻」、	〃	〃	〃				
186	張□受、陳、金伏□、彭玄達、舒真、	題簽は「菩薩本生鬘論十五十六同巻」につくる、	〃	〃	〃				
187	仔、	破損、題簽「大乘集菩薩學論十三十四同巻」、	32	〃	〃				
188	呉成、王聚、楊官、魏佐、陸阿、李佛、周狗児、康五、	補筆あり、	54	2123	〃				
189	周保児、王官、陳七、良蛮、趙、金聚、康五、劉□貴、何黒児、魏好得、	虫害、補筆あり、	〃	〃	〃				

198	197	196	195	194	193	192	191	190
1476	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
駆二	〃六	〃五	〃四	〃三	〃二	縣一	〃六	〃五
高僧傳　卷第八（梁會稽嘉祥寺沙門慧皎撰）	〃　卷第十二	〃　卷第十一	〃　卷第十	〃　卷第九	〃　卷第八	〃　卷第七	〃　卷第六	〃　卷第五
23	31	16	40	26	32	27	31	24
						◎		
	D						D	
		b	a			g		
○	○		○	○	○	○	○	
陶二、郭金？、周崇□、楊劣、郭庄童、許道児、道蒲、晏漢、	厚、彭玄達、楊青、舒、胡、真見、楊音□、戴、鄭福恵、虞曽、姜、均仔、謝友中、李天児、	曹関童、金伏来？、徐遜、陳厚、戴、□文彬、	仲、戴、虞曽、謝友中、甘奉、陳海、蔡義、喩、恵得、	曹関童、那、思敬、呉、陳、原佐、戴安仔、□晏、田奴、姚、彦四、王季二、	罰□、罰板、	戴、陳海、呉三祖、姜、喩得名、思敬、頼□、謝、張官受、	趙其、陳亮、黄信、楊遇春、徐俊、朱祖、呉凱、曹成、	王彬、張恵、成、張童、楊、朱達、呉成、周狗児、李佛、王黒、徐俊、
破損、補筆あり、	「乾隆五十二年弐月初三日…」、		破損、補筆あり、			巻首破損、虫害、補筆あり、	「乾隆五十二年二月初二日…」、補筆あり、	補筆あり、
50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
2059	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	⑧	〃	〃	〃	〃	〃	⑦

199	〃	〃 三	〃 巻第九	15				○	許道児、劉、还仔、陽、	巻首破損、虫害、	〃	〃	⑧
200	〃	〃 六	〃 巻第十二	15				○	謝仔中？、徐、朱保孫、	破損、虫害、	〃	〃	〃
201	1477	振一	續高僧傳 巻第八（唐釋道宣撰）	25	○			○	李官音仔、楊□仔、呉驢、戴文伸、□本立、劉、王、	表・裏表紙上部1/3破損、虫害、	〃	2060	〃
202	〃	纓二	〃 巻第十七	(14)					劉、范、馮左保、陳、	巻首破損、補筆あり、	〃	〃	〃
203	〃	〃 三	〃 巻第十八	22				○	畢圭、王以成、陳、関住、劉、付、陳康孫、孟謙、王己一、王海、	破損、虫害、補筆あり、	〃	〃	〃
204	〃	〃 八	〃 巻第二十三							第一張目の第一折のみ、	〃	〃	〃
205	〃	世一	〃 巻第二十四	22					劉中、鄭、胡弟児、呉、蘇州府天宮寺定山刊補（十五、十六）、	表表紙及第一張の第二折までなし、破損、虫害、補筆あり、	〃	〃	〃
206	1478	禄四	有宋高僧傳 巻第四（左街天壽寺通慧大師賜紫贊寧 左街相國寺講經論大德賜紫智輪同奉勅撰）	19					郭仲勉、劉成、時、		〃	2061	〃
207	〃	〃 五	〃 巻第五	18					肖寿□、崇得、高元寿、呉良清、鄭彦祥、史、蔡、		〃	〃	〃
208	〃	〃 六	〃 巻第六	20					郁、蘇州府天宮寺定山刊補（十五～十八）、	補筆あり、	〃	〃	〃

218	217	216	215	214	213	212	211	210	209
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 五	〃 四	〃 三	侈 二	〃 十	〃 九
〃 巻第二十	〃 巻第十九	〃 巻第十八	〃 巻第十七	〃 巻第十五	〃 巻第十四	〃 巻第十三	〃 巻第十二	〃 巻第十	〃 巻第九
19	23	23	23	20	26	17	19	17	17
D								D	
				g					
							○		
潘晋、建中、楊欒朱、	李應中、楊仲□、陳細保、信士謝岩貴肖妙善刊、	万、曽伏？、張伯揚、達、	付、李應中、保逢、陳、	連、比丘満起、蘇州府天宮寺定山刊補（九、十）、	王、謝太、蔣従漢、楊五、	李和、朱子□、弟俚、目生、	王貴、陳細保、諶恵、張貴孫、康敬、付足之、	芦虎、方□生、婁道明、	静安、貝公亮、劉、林、李始孫、阮、蘇州府天宮寺定山刊補（十三、十四）、
「乾隆五十二年二月十七日…」、破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	巻首巻末破損、	補筆あり、	虫害、補筆あり、	補筆・圏点あり、	補筆あり、	破損、	「乾隆五十二年二月十六日…」、虫害、破損、	破損、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑧

228	227	226	225	224	223	222	221	220	219
1480	〃	〃	〃	〃	〃	1479	〃	〃	〃
〃 五	〃 四	〃 三	駕 二	〃 七	〃 五	車 三	〃 九	〃 七	富 一
廣弘明集　巻第一 （唐麟德元年終南山釋道宣撰）	〃　巻第十四	〃　巻第十三	〃　巻第十二	〃　巻第七	〃　巻第五	弘明集　巻第三 （梁釋僧祐撰）	〃　巻第二十九	〃　巻第二十七	〃　巻第二十一
13	14	15	28	15	22	16	18	16	(18)
									◎
								b	
	○	○	○	○	○	○			
何宗三、添思、趙庄、比丘満起、熊生仔、	黄、余善、	章、如□、王得賢、戴仁関、鄧伏、余罷児、	熊、劉會、楊、陳、満仔、阮、子高、劉公保、李仲敬、周宗□、	胡、関仔、許、鄧華、	姜、梁、黎、鄔□俚、	世槐、陳魯、甫、蘇州府天宮寺定山刊補（三、四）、	弘成、趙阿添、占、羊仔、楊関、彭、	黄掬□、喩、券童、劉中、鄧、	観保、隆二、羊、今保、趙阿添、鄧始俚、戴民用、徐成、簡、義謙、
巻首に「廣弘明集序」及「廣弘明集歸正篇序」あり、補筆あり、	破損、		補筆あり、		破損、	補筆あり、	表表紙及第一張の第一折～第三折までなし、破損、虫害、		ムレ、虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	52	〃	〃	〃
2103	〃	〃	〃	〃	〃	2102	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑨	⑧

238	237	236	235	234	233	232	231	230	229
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃六	〃五	〃三	〃二	肥一	〃十	〃九	〃八	〃七	〃六
〃 巻第十二	〃 巻第十一（唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第九	〃 巻第八	〃 巻第七	〃 巻第六	〃 巻第五	〃 巻第四	〃 巻第三	〃 巻第二（唐終南山釋氏道宣撰）
21	24	27	25	20	16	17	18	16	17
				◎					
					D				
				j					
○	○		○		○	○	○	○	
余文□、汪春保、黄掬生、	馬、章、林、官保、文得、文翁、陳、劉中、黄？五、	李、趙阿添、徐成、占□仔、鄭、汪春保、	文翁、戴民用、景生、呉玄生、羊、銭紀、勝保、李周、	弘成、張童慶、朱文、忽、茂実、志良、汪春保、劉中、	奇童、呉五、劉定保、徐原得、	呉五、臧四児、	呉忠勝、余罷児、	薛、易海、	信士劉俊、比丘満起、
第一張の第四折～第四張の第四折までなし、破損、	破損、補筆あり、	破損、虫害、	補筆あり、巻末破損、	破損、補筆あり、第二十張の第二～第四折までなし、	破損、「乾隆五十二年二月廿日…」、補筆あり、			破損、虫害、補筆あり、	虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑨

247	246	245	244	243	242	241	240	239
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃六	〃五	〃四	〃三	〃二	軽一	〃九	〃八	〃七
〃 巻第二十一	〃 巻第二十	〃 巻第十九	〃 巻第十八（唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第十七（唐釋道宣撰）	〃 巻第十六	〃 巻第十五（唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第十四（大唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第十三（唐釋道宣撰）
18	20	25	31	23	12	37	22	34
					◎			
						D		
	a		a					
○		○	○	○	○	○	○	○
李、弓、鄧満、	魯尚児、龔、	鉄官、黄道生、	謝旭、弓妙音、宋賢、魯、江子、呉、鄭弟、程伯茂、鄭英、丘志俚、	尭朱、劉世□、狗弟、蒲受、鄧、汪真、汪呈、潘、受仔、趙勝、	謝真、添里、鄔、鄧華三、□生、黄、	凌、隆二、徐、支添右、文翁、熊、王、今保、券童、林、伯福、占羊仔、義謙、余劉孫、	阿添、志良、朱文、忽、余劉孫、券童、	徐、馬、戴民用、呉□、李周、劉、弘成、江貞、徐成、李布廣、辛、孫、呉玄生、黄掬生、劉中、
補筆あり、	巻末に「音字見後巻末」とあり、補筆あり、		破損、補筆あり、	破損、虫害、補筆あり、	ムレ、破損、虫害、補筆あり、	「乾隆五十二年二月廿一日…」、破損、補筆あり、	補筆あり、	虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	⑩	〃	〃	〃	⑨

256	255	254	253	252	251	250	249	248
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	策 二	〃 九	〃 七
〃 巻第三十	〃 巻第二十九下	〃 巻第二十九上（唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第二十八下	〃 巻第二十八上（終南山釋氏道宣撰）	〃 巻第二十七下	〃 巻第二十六（唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第二十四（大唐西明寺釋道宣撰）	〃 巻第二十二
33	20	21	16	25	31	33	25	30
D								
a								
○	○		○		○	○		○
郁、余興、劉成、黄、占、蔡、郭、方祁生、	李、貝公亮、華、	戴関保、崇得、沈撮、僧友、士文、劉、	林、仲勉、道名、婁、高友直、夏遠童、	徐□敬、童七、方祁生、郁、存、劉、聶鳥俚、史衍□、□季方、李伯清、	劉孟仔、癸仔、鄭、芦虎、余興、楊仔、	肖涛□、劉、崇得、朱、漢庄？、李、	謝真、董慶、弓道済、張？保仔、馬亮之、鄔添俚、江真、江子、黄仁十八罰板、	許、江六、鄧廣七、関仔、金、鄭英、宋賢、王、謝真、高受、黄、丘志俚、汪呈、
表表紙及第一張の第一～第四折なし、破損、「乾隆五十二年二月廿二日…」、	破損、	巻末に「音字見下巻」とあり、補筆あり、	補筆あり、	破損、巻末に「音字見下巻」とあり、	表表紙及第一張の第一折なし、	破損、	破損、第二十五張の第三折～第五折及裏表紙なし、	虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑩

265	264	263	262	261	260	259	258	257
〃	〃	〃	1502	〃	〃	〃	〃	1501
〃 四	〃 三	〃 二	阿 一	〃 十	〃 八	尹 五	〃 二	溪 一
〃　巻第四	〃　巻第三	〃　巻第二 （慧日永明寺主智覺禪師延壽集）	宗鏡録　巻第一 （宋呉越國慧日永明寺主智覺禪師延壽集）	〃　巻第七十八	〃　巻第七十六 （唐上都西明寺沙門釋道世字玄惲撰）	〃　巻第七十三 （唐上都西明寺沙門釋道世撰）	〃　巻第四十九	法苑珠林　巻第四十八 （唐上都西明寺沙門釋道世字玄惲撰）
15	17	20	19	12	17	14	25	14
			◎					◎
a						a	a	a
○			○		○		○	○
王氏真全、賁應忠、普仔、比丘満起（六）、	道、郁昇妻牛氏、大方、	黎、仲文、周、瞿□得、保、	劉季真、劉次、熊許孫、兼興、黄、	孟起宗、周宗廉、袁川鼻、黄、还仔、	劉立之、祖保、董子名、趙文、还仔、周普庵、	孟起宗、付従善、		
補筆あり、	補筆・圏点あり、	補筆・圏点あり、	巻首に左朝請郎尚書礼部員外郎護軍楊傑撰の「宗鑑録序」及天下大元帥呉越國王俶製の「宗鏡録序」あり、破損、	補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、	補筆あり、	
〃	〃	〃	48	〃	〃	〃	〃	53
〃	〃	〃	2016	〃	〃	〃	〃	2122
⑪	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑩

274	273	272	271	270	269	268	267	266
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 三	〃 二	衡 一	〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五
〃 巻第十三	〃 巻第十二	〃 巻第十一	〃 巻第十	〃 巻第九	〃 巻第八	〃 巻第七	〃 巻第六	〃 巻第五
14	15	13	18	25	15	12	19	17
		◎						
			D					
○				○				○
邢義、孫成、周狗児、侯鉞、信官柴祥（九）、會首僧人如考（十、十二）、趙輔（十一）、信女呉妙秀（十三）、		金聚、陸阿、王、康五、張童、	陳七、楊丑、昇？官、劉、徐狗、王任？賢、	黄、劉恭、生存、曹並、	兪、付以恭、劉季真、陳光、李□音仔、尹、	記仔、熊許孫、李苟、保、	黄定安、成、子名、	丙仔、劉、呉、	馮得一、楊満？仔、胡孟旭、呉許孫、
補筆あり、		虫害、補筆あり、	破損、裏表紙なし、補筆あり、	「乾隆五十二年三月十六日…」、破損、ムレ、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、	補筆あり、	表紙虫害、補筆あり、	内題の下に「済五」の陰刻函次あり、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑪

284	283	282	281	280	279	278	277	276	275
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃五	〃三	奄二	〃十	〃九	〃八	〃七	〃六	〃五	〃四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
巻第二十五	巻第二十三	巻第二十二	巻第二十	巻第十九	巻第十八	巻第十七	巻第十六	巻第十五	巻第十四
16	23	15	14	17	22	(16)	16	15	16
			D						
			a			c	a		
				○	○		○		
滿仔、易子文、	劉、馮□保、翁、		劉九、文記、黄奴子、賀賢、張関、	朱祖、楊成、高、周保、李佛、陸阿、李天児、	周可、譚五?、王士□、張忠、弓名、智、陳号、	林中、陳七、張中、張?旺、	趙孫児、王黒、徐俊、張信、	比丘満起、王全、呉、張、高祥、斉成、羅景先、	王、比丘満起、黄信、良、善人尹聡（一、二）、信官李全（三、四）、
補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	「乾隆五十二年三月十七日…」、補筆あり、	補筆・圏点あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑪

294	293	292	291	290	289	288	287	286	285
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 九	〃 七	〃 六	〃 五	宅 一	〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六
〃 巻第三十九	〃 巻第三十七	〃 巻第三十六	〃 巻第三十五	〃 巻第三十一	〃 巻第三十	〃 巻第二十九	〃 巻第二十八	〃 巻第二十七	〃 巻第二十六
16	19	23	18	14	15	21	28	17	18
				◎					
					D				
	g	g					a		
		○	○	○					
善、熊生存、周、藍、章、	王子智、茂、丘大亨、伊、仁関、黄、	易、侯以文、呉生保、陳子奇、王万九、阿□、薛立如、	陳進、李、呉継生、凌継？保、呉中勝、王伏生、	毛、王林□、趙、伏生、王、彭如真、	徐成、宗、	劉友三、鄧霊干、	肖、程計祖、楊、	安、劉支、	
破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	巻首破損、補筆あり、	「乾隆五十二年三月十八日…」、ムレ、	補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	⑫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑪

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三	〃 二	曲 一
〃 巻第五十	〃 巻第四十九	〃 巻第四十八	〃 巻第四十七	〃 巻第四十六	〃 巻第四十五	〃 巻第四十四	〃 巻第四十三	〃 巻第四十二	〃 巻第四十一
17	17	16	17	20	16	19	15	16	17
									○
C									
							m		
○	○					○	○	○	
辰保、章、清、高山甫、劉関仔、黄信、	趙文、陳、袁、楊、住、	高山甫、楊芳、晏、侯？圣、	奇郎、善、陶関生、高関保、	張、王、陳□児、官保、楊、官音保、	孟起宗、王官音、黄、巣生、霍、付原、	景、高関保、王、祖保、	文、召、善、張□孫、	善、呉、陳蛮□、高関保、官同、	黄、徐、高山甫、楊奉□、
「乾隆五十二年三月廿日…」、ムレ、		破損、補筆あり、	破損、	破損、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、	補筆・圏点あり、	虫害、巻末破損、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑫

314	313	312	311	310	309	308	307	306	305
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三	〃 二	阜 一
〃 巻第六十	〃 巻第五十九	〃 巻第五十八	〃 巻第五十七	〃 巻第五十六	〃 巻第五十五	〃 巻第五十四	〃 巻第五十三	〃 巻第五十二	〃 巻第五十一
13	11	16	15	14	13	14	13	11	17
									○
						g	g	g	g
○									
高九光、	張中、	沈真、王官、王全、林中、	張信、曹成、金聚、陳亮、戴敏、	周狗児、李佛、趙、好得、楊遇春、	邢義、劉九、周保児、馬川、肖□、高伴、劉廣、	蔵満、周保、楊官、	呉成、劉庸、進、	龔原、楊五、盛彬、曹成、趙義、高、	康五十、張童、范名、劉庸、班道、孫成、朱祖、黄信、
虫害、		補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	虫害、	ムレ、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑫

324	323	322	321	320	319	318	317	316	315
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十二	〃 十	〃 八	〃 七	〃 四	〃 三	微 二	〃 十三	〃 十二	〃 十一
〃 巻第七十四	〃 巻第七十三	〃 巻第七十一	〃 巻第七十	〃 巻第六十七	〃 巻第六十六	〃 巻第六十五	〃 巻第六十三	〃 巻第六十二	〃 巻第六十一
14	12	13	13	18	17	17	13	15	16
							C		
k			a						
						○			
余善□、陳子奇、							康、張童、呉成、	楊五、高伴、劉、范名、李佛、盛彬、	陳七、弓名、黄信、金聚、
補筆あり、	補筆あり、	ムレ、破損、	ムレ、補筆あり、	ムレ、補筆あり、	ムレ、破損、	補筆あり、	破損、「乾隆五十二年三月廿日…」、	破損、	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	⑬	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑫

334	〃	〃六	巻第九十三	13			g		陳海、原佐、王、陳厚、	破損、補筆あり、	〃	〃	〃
333	〃	〃五	巻第九十二	18			b		賴仔、李斌、毛里、貴名、戴女達、王真、良記、戈、恵、周子義、	破損、補筆あり、ムレ、	〃	〃	〃
332	〃	〃四	巻第九十一	10					虞曽、	破損、補筆あり、	〃	〃	〃
331	〃	〃三	巻第九十	13					吳三祖、胡、真見、戴女達、	ムレ、破損、	〃	〃	〃
330	〃	〃二	巻第八十九	16			m n		鄭福、	ムレ、破損、補筆あり、	〃	〃	〃
329	〃	孰一	巻第八十八	14	○				么児、	表表紙なし、破損、	〃	〃	〃
328	〃	〃六	巻第八十一	12					好一、李、付欒五、		〃	〃	〃
327	〃	〃三	巻第七十八	16					皂奴、楊貴□、宗厚、阿真、道児、周今、畢圭、	破損、	〃	〃	〃
326	〃	旦二	巻第七十七	14			m		文彬、	表表紙及第一張の第一折～第四折までなし、破損、	〃	〃	〃
325	〃	〃十二	巻第七十五	12		C				「乾隆五十二年三月廿一日…」、ムレ、	〃	〃	⑬

344	343	342	341	340	339	338	337	336	335
〃	〃	1508	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 三	〃 二	合 一	〃 十三	〃 十二	〃 十一	〃 十	〃 九	〃 八	〃 七
〃 巻第三	〃 巻第二	續傳燈録 巻第一	〃 巻第一百	〃 巻第九十九	〃 巻第九十八	〃 巻第九十七	〃 巻第九十六	〃 巻第九十五	〃 巻第九十四
18	24	15	16	14	17	12	13	12	(15)
		○							
			C						
				g			b	b	
劉名、張、孟仔、孟尹、仲勉、郭、楊孫仔、黄毛、	聶鳥里、□得、周、丘、晋季方、	瓊初、得淵、于、	敬宗、鄭、占、徐寄養、毛里、思敬、	中句、李天、蔡義、鄭福恵、楊青、沈徳、田奴、	貴名、王真、虞、謝、范順、	喩得名、宗善、曽子良、徐記□、良記、	章、彭玄達、	張官受、	毛、孫、范、陳文、田奴、
破損、	破損、	表表紙なし、扉絵破損、	「乾隆五十二年三月廿四日…」、破損、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、		補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、
〃	〃	51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	2077	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	⑭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑬

353	352	351	350	349	348	347	346	345
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃四	〃三	濟二	〃十一	〃十	〃九	〃六	〃五	〃四
〃 巻第十五	〃 巻第十四	〃 巻第十三	〃 巻第十一	〃 巻第十	〃 巻第九	〃 巻第六	〃 巻第五	〃 巻第四
19	29	(23)	20	16	(14)	18	17	(13)
			C					
	a							
呉中勝、	□就、楊奇一、太享、林敬三、弓、陳通、	胡公礼、呉、藍再興、劉會、万志□、	李伯清、楊、彦祥、鄭、聶□俚、何、山壽、	静安、阮、丘云、黄、	何、	川？得、肖受僧、黄牛俚、	周盛、戴関保、余興、蛮児、李、方子華、	阮、静安、住孫、劉、貝公亮、周、漢荘、付廉、
表表紙及巻首破損、第一張の第一折なし、巻末の経名では巻数を「十六」とする、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、ムレ、	「乾隆五十二年三月念九日…」、補筆あり、	表表紙及第一張～第九張の第三折までなし、	破損、補筆あり、第二張の第三・第四折なし、	破損、補筆あり、		破損、虫害、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑭

363	362	361	360	359	358	357	356	355	354
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
扶三	〃十	〃九	〃八	〃七	弱五	〃九	〃八	〃七	〃五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
巻第三十四	巻第三十一	巻第三十	巻第二十九	巻第二十八	巻第二十六	巻第二十	巻第十九	巻第十八	巻第十六
16	18	20	22	(25)	(18)	25	18	17	22
	C								
		g	g				a	a	p
			○						
曾仔、奇郎、陳、	汪添得、仕賢、	徐添、呉、比丘満起、史衍俚、楊、	澄、済、孟、徐、比丘満起、趙師保、萬□五、	劉支三、□受俚、黄□生、	徐、畢圭孫、王喜□、鄧霊干、王務、	陳通、余、藍再興、黄谷相、子奇、	胡公礼、趙、呉、趙道□、	子得、李、胡、比丘満起、周文英、	子恭、余必成、
破損、補筆あり、	「乾隆五十二年四月初二日…」、	補筆あり、	破損、補筆あり、	巻末破損、虫害、ムレ、	巻首巻末破損、	第二十四張目脱落、ムレ、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑭

364	1514	漢一	宗門統要續集　巻第一（建渓沙門宗永集　建康保寧禅寺住持沙門清茂續集）	34	○		a		朱、陶二、黄、許、戴子成、得名、江名、	巻首に徑山興聖萬壽禅寺住持沙門希陵撰の「宗門統要續集序」及龍圖閣直學士左朝請郎提舉江州太平観耿延禧撰の「重開宗門統要序」あり、巻首破損、補筆あり、
365	〃	〃二	〃　巻第二	28			m		戴子成、李□仔、高寓一、周普□、	破損、虫害、補筆あり、
366	〃	〃三	〃　巻第三	27					陽、英二、庚、劉志中、李、呉、付欒五、舟生、入官、	破損、補筆あり、
367	〃	〃四	〃　巻第四	22					程、江得、高寓一、彭敬？得、劉進、朱景芳、茂遠、文中、興、蔡、葉、	補筆あり、
368	〃	〃五	〃　巻第五	22					朱、周壽、周今、文中、余伏□、何、	虫害、
369	〃	〃六	〃　巻第六	16					許、宗厚、周普庵、得名、王、付欒五、劉、関仔、劉道、	補筆あり、
370	〃	〃七	〃　巻第七	25					劉、呉、許、雷□保、陶二、芦顕、	虫害、補筆あり、
371	〃	〃八	〃　巻第八	18					付、甘思右、朱景芳、王道満？、□慶一、陸？善、周今、	補筆あり、
						〃		⑭		
						〃		⑮		

381	380	379	378	377	376	375	374	373	372
〃	1516	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃二	俊一	〃十	〃九	〃七	〃六	〃五	〃四	恵三	〃九
〃 巻第十一之中	天目中峯和尚廣録　巻第十一之上（參學門人北庭臣僧慈寂上進）	〃 巻第十九	〃 巻第十八	〃 巻第十六	〃 巻第十五	〃 巻第十四	〃 巻第十三	〃 巻第十二	〃 巻第九
18	15	26	14	20	20	20	20	21	15
	○								
									C
					b			m	f
李始孫、劉得□、劉成、	□生、崇得、戴□保、劉原、劉成、	謝、徐、泉一、呉三祖、田奴、雍子容、	彭、周子義、喩得名、殿、陳文、張官受、	陳海、道仔、仲□、戴、田奴、	殿、鄭福恵、	甘奉乙、李涼、原？佐、毛、斗生、彭玄達、喩、戴敏、	李天児、謝、友二、毛、昭孫、女達、戴、公児、	徐、道仔、虞曽、田奴、李二、鄭福恵、	劉、陶二、
補筆あり、	表・裏表紙なし、巻首巻末破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	虫害、補筆あり、	虫害、	虫害、巻末破損、「乾隆五十二年四月初九日…」、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑮

390	389	388	387	386	385	384	383	382
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
乂二	〃十	〃九	〃八	〃七	〃六	〃五	〃四	〃三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
巻第十九	巻第十八之上	巻第十六・十七	巻第十五	巻第十三・十四	巻第十二之下	巻第十二之中	巻第十二之上	巻第十一之下
14	15	18	13	17	17	15	17	15
	C							
						g		
文、斉成、智、金、廣信、	鄭彦□、方□生、何、陳、丘云、晋季方、	中□、黎士原、戴文伯、張、黄毛、	郭□郎、貝、李始孫、	劉勝□、高元□、余興、劉秋生、	呉良清、夏遠童、静安、阮、劉名、毛皂奴、芦虎、	□得、周、漢、徐本、張、戴、占、聶鳥俚、	劉住遜、鄧子安、孟、孫、劉秋生、	郭、毛、李、
	「乾隆五十二年四月十三日…」、補筆あり、	巻末に「此字甄篇韻無出出甄迸古彭三音」の墨書あり、補筆あり、題簽「天目中峯和尚廣録巻第十六之十七」、	補筆あり、	題簽「天目中峯和尚廣録巻第十三之十四」、	補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑮

391	〃	〃	〃 三	〃	卷第二十	14				龔原、邢義、□青、周狗児、羅景先、朱祖、班道、	破損、						⑮
392	〃	〃	〃 四	〃	卷第二十一・二十二	13				陸、賀福、陳七、譚興、孫成、雇、	破損、題簽「天目中峯和尚廣録巻第二十一之二十二」、						〃
393	〃	〃	〃 五	〃	卷第二十三・二十四	14				曹成、李佛、豆礼、高伴、陳亮、魏好得、	題簽「天目中峯和尚廣録巻第二十三之二十四」、補筆あり、						〃
394	〃	〃	〃 六	〃	卷第二十五・二十六	19				王彬、呉成、黄奴子、楊遇春、賀福、王聚、周可、陳亮、李進、	題簽「天目中峯和尚廣録巻第二十五之二十六」、補筆あり、						⑯
395	〃	〃	〃 七	〃	卷第二十七上	10				劉廣、黄信、邢義、朱祖、							〃
396	〃	〃	〃 八	〃	卷第二十七下・二十八	9				万川、周保、楊遇春、呉、徐俊、	題簽「天目中峯和尚廣録二十七下之二十八」、						〃
397	〃	〃	〃 九	〃	卷第二十九	13				范名、徐俊、青、陸阿、							〃
398	〃	〃	〃 十	〃	卷第三十	21		C		楊五、李進、何黒児、弓名、王黒、	巻末に「元故天目山佛慈圓照廣慧禪師中峯和尚行録」、虞集奉勅撰「有元勅賜智覺禪師法雲塔銘」、宋本製文「有元普應國師道行碑」、善達密的理「謝降賜中峯和尚廣録入蔵幷封號國師表」あり、「乾隆五十二年四月十五日…」、						〃

399	1518	勿二	古尊宿語録　巻第十四	16					貝、如仔、	表表紙及第一張～第四張の第一折までなし、破損、	⑯
400	〃	〃三	〃　巻第十五	20					仲庄、密、周今、仲只、	破損、補筆あり、	〃
401	〃	〃四	〃　巻第十六	24					鄭、官保、郭、景、張佛□、江得、高友直、楊、迪、孟文、	ムレ、補筆あり、	〃
402	〃	〃六	〃　巻第十八	16					今文敬、柯、王、孟文、易、王以成、	巻首破損、補筆あり、	〃
403	〃	〃七	〃　巻第十九	18					胡南、劉関□、姜公隆、	破損、第十八張の第五折及裏表紙なし、補筆あり、	〃
404	〃	〃八	〃　巻第二十（僧録司右闡教兼鐘山靈谷禪寺住持浄戒重校）	11					王□保、周、景春、徐成、孫受遠、王子真、	表表紙破損、ムレ、	〃
405	〃	〃九	〃　巻第二十一	22					澄、鄭嫩児、李琦生、劉支三、夏遠児、黄観音保、李盛、陸、盛茂、	補筆あり、巻末に浄戒の識語あり、	〃
406	〃	〃十	〃　巻第二十二	14					徐成、付、済、劉、易子文、海、	補筆あり、	〃
407	〃	〃十一	〃　巻第二十三	(20)					甘思右、今文敬、同郎、黄観音保、徐□児、崇得、	破損、補筆あり、一行一八字詰箇所あり、	〃
408	〃	〃十二	〃　巻第二十四	13	C				翁、貝公亮、万？冬五、簡、生仔、王喜仲、付、	「乾隆五十二年四月十六日…」、	〃

409	〃	多四	〃	巻第二十八	13			陳、李、	表表紙及第一張の第一・二折なし、補筆あり、
410	〃	〃五	〃	巻第二十九	18			周子義、崇善、占、李涼、	表表紙及第一張の第一～第三折までなし、補筆あり、
411	〃	十二	〃	巻第三十八	21			劉十五、河南汝州観音寺僧人古道（十九）、山西太原府比丘圓性（二十）、	ムレ、補筆あり、
412	〃	〃三	〃	巻第三十九	21			許、高受、	破損、補筆あり、
413	〃	〃五	〃	巻第四十一	18		a	堯保、高受、	巻首破損、補筆あり、
414	〃	〃六	〃	巻第四十二	15			謝真、	補筆あり、
415	〃	〃七	〃	巻第四十三	24			崇、呉、三俚、	巻末破損、補筆あり、
416	〃	〃八	〃	巻第四十四	24			鄧廣七、平奴、意、	表表紙及第一張～第三張の第四折までなし、補筆あり、
417	〃	〃十一	〃	巻第四十七					表表紙及第一張の第一・二折のみ、
418	1519	寔一	妙法蓮華經玄義　巻第一上（天台智者大師説）	15	○		a	黄進、魏、文記、周保、趙義、孫保補工、	巻首に沙門灌頂述の「法華私記縁起」あり、補筆あり、破損、

409	33	1716	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑯
410			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
411			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
412			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
413			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
414			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
415			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
416			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
417			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
418			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

428	427	426	425	424	423	422	421	420	419
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
寧一	〃十	〃九	〃八	〃七	〃六	〃五	〃四	〃三	〃二
〃 巻第六上	〃 巻第五下	〃 巻第五上	〃 巻第四下	〃 巻第四上	〃 巻第三下	〃 巻第三上	〃 巻第二下	〃 巻第二上	〃（智者大師説） 巻第一下
21	20	20	20	20	17	19	20	16	18
○									
	E								
	b								
保童、王□観、華、黄、王興児、	周可、高伴、黄進、万□、	周狗児、楊官、旺、范名、張童、李進、班道、	黄信、楊成、王聚、張信、盛彬、	張信、盛彬、劉□貴、趙孫児、王全、林中、文記、	王士賢、中得、曽三、楊五、朱祖、沈真、	雇、李進、陸阿、魏、徐、	班道、高、王黒、陳七、徐狗、何黒児、李佛、周保、	劉庸、王士賢、周保、黄信、豆礼、黄奴子、	□智、金聚、周狗児、高九、楊遇春、趙孫児、龔原、曹成、譚五、
虫害、補筆あり、	虫害、「乾隆五十二年四月十九日…」、補筆あり、	破損、虫害、補筆あり、	破損、虫害、補筆あり、	虫害、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	巻首破損、第一張の第二・三折なし、虫害、補筆あり、	虫害、	虫害、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑰	〃	〃	⑯

438	437	436	435	434	433	432	431	430	429
1520	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
晉一	〃十	〃九	〃八	〃七	〃六	〃五	〃四	〃三	〃二
法華玄義釋籤　巻第一上（天台沙門湛然述）	〃巻第十下	〃巻第十上	〃巻第九下	〃巻第九上	〃巻第八下	〃巻第八上	〃巻第七下	〃巻第七上	〃巻第六下
21	19	21	16	18	18	18	18	19	21
○									
	E								
	b					a		a	
周阿孫、□受、陳、隆二、戴民用、郭景生、庠時用、徐、占羊仔、	李四、□子賢、	李普仔、	田仔、賢、康敬一、	普成、鄭、□金、	侯、□冥、	張、付足之、葉？児、		李和、李賢？、	張□揚、□官生、
巻首に君山徐饉男普門子屬辭「釋籤縁起序」あり、虫害、破損、	虫害、「乾隆五十二年四月廿日…」、ムレ、	虫害、	虫害、	破損、	ムレ、		補筆あり、	補筆あり、	破損、虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1717	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑰

447	446	445	444	443	442	441	440	439
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 十	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三	〃 二
〃 巻第五下	〃 巻第五上	〃 巻第四下	〃 巻第四上	〃 巻第三下	〃 巻第三上	〃 巻第二下	〃 巻第二上	〃 巻第一下
21	21	20	21	21	21	22	23	21
E								
□保俚、劉中、江貞、	呉□勝、趙観音保、	黄、李周？、	呉玄生、呉丑、券童、薛志良、孫、	戴民用、	汪□保、□信中、茂□、	丘太亨、徐□孫、李希、張、黄保、	券童、徐、江貞、郭景生、葉？益、李希、	今保、陳、
虫害、「乾隆五十二年四月廿一日…」、	虫害、補筆あり、	虫害、補筆あり、ムレ、	虫害、第十張に「晋字七巻十一連／少一ケ該是知字」の付箋あり、圏点・補筆あり、	虫害、破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、	虫害、	破損、ムレ、表紙の裏打ちに『妙法蓮華経特品第十三』の一部を使用、	虫害、破損、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	⑱	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑰

448	449	450	451	452	453	454	455	456	457
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
楚一	〃二	〃三	〃四	〃五	〃六	〃七	〃八	〃九	〃十
〃 巻第六上	〃 巻第六下	〃 巻第七上	〃 巻第七下	〃 巻第八上	〃 巻第八下	〃 巻第九上	〃 巻第九下	〃 巻第十上	〃 巻第十下
(18)	19	24	19	21	19	20	19	20	23
○									
									E
					l				a
劉志中、劉道、周紹？俚、丈中、芦顕、	沈仲寧、劉、王道満、宗厚、許、思庸、李茂遠、	胡饒、李好仔、□佋里、劉、呉、高寓一、劉志中、	佋里、欒五、付、廖英二、□慶、	肖晋、高寓一、付、婁□保、徐□生□罰工、罰工、許、	□慶、甘思右、畢圭孫、顕、関仔、呉舟生、	胡玉二、伏来？、金、畢圭孫、周今、黄原山、王道満、肖晋、	付汝林、周今、王道満、周普庵、金、伏来？、呉、胡玉二、	王、□奇保、何真、付、宗厚、許、関仔、劉、興、澄、	王、英二、何真、姚、李奴仔、黄原山、劉道、彦四、関仔、□生保、
表・裏表紙なし、扉絵一部破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、	虫害、裏表紙なし、	虫害、補筆あり、	破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、	巻首破損、虫害、補筆あり、	補筆あり、	破損、第七張の第一・三・四折なし、「乾隆五十二年四月廿一日…」、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
⑱	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

458	459	460	461	462	463	464	465	466	467
1521	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
更一	〃二	〃三	〃四	〃五	〃六	〃七	〃八	〃九	〃十
妙法蓮華經文句（天台智者大師説） 巻第一上	〃 巻第一下	〃 巻第二上	〃 巻第二下	〃 巻第三上	〃 巻第三下	〃 巻第四上	〃 巻第四下	〃 巻第五上	〃 巻第五下
22	19	19	20	20	22	19	23	18	20
○									
									E
									i
仔、肖、胡三礼、□伯茂、	江、張、	高、李、比丘満起、呉□俚、黄得升、	黄貴、高受、鉄観、趙勝、継祖、弓道済、	江、謝旭、鄧廣七、	呉資、弓、劉、	受仔、余関仔、鄔□里、黄貴、庠生、呉関、	鄭、肖、馬亮之、尭保、弓妙音、顕、梁、	世槐、劉、董、	呉、王、葉道、鄧、真、弓□、庠生、芳礼生、呉資、
補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、		補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、	「乾隆五十二年四月廿二日…」、
34	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1718	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
⑱	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

476	475	474	473	472	471	470	469	468
〃	1524	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 四	假 三	〃 九	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	覇 一
〃 巻第一之四	止觀輔行傳弘決　巻第一之三 （毘陵沙門湛然述）	〃 巻第十上	〃 巻第九下	〃 巻第九上	〃 巻第八下	〃 巻第八上	〃 巻第七下	〃 巻第六上
31	28	18	23	18	(21)	19	22	21
								○
a								
圣同、戴民用、芳五、簡、黄掬生、文翁、余劉孫、徐六孫、勝保、孫、鄭孟□、潘、林伯福、	薛志良、庶時用、羊、今保、楊、関、葉？益、徐六孫、王真官、郭、景生、陶、弘成、	劉、辛堡、劉季真、李、記仔、黄还朗、夏善、熊、	曹普庵、黄、段世昌、瞿関保、	呉驢、弓、舎官、今社右、王、丙仔、	李、王黒俚、戴文伸、旬？児、呉驢、弓、道厚、	庶本立、付、李、熊、劉次一、	呉驢、李、呉道孫、保、趙成祖、	潘童、敖牙仔、劉季真、李□音仔、
虫害、破損、補筆あり、			巻首破損、補筆あり、		補筆あり、巻末破損、		表表紙及第一張の第一折なし、補筆あり、	表表紙なし、扉絵一部破損、
〃	46	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	1912	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑲	〃	⑱

485	484	483	482	481	480	479	478	477
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 六	〃 五	〃 四	〃 三	途 二	〃 八	〃 七	〃 六	〃 五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
巻第四之二	巻第四之一	巻第三之四	巻第三之三	巻第三之二	巻第二之四	巻第二之三	巻第二之二	巻第二之一
15	17	28	26	22	28	25	23	19
					E			
	g				i	i	i	
張関、譚五、王官、陳号、	曹、楊遇春、楊五、林中、信士李實、陸阿、	范名、張智、金聚、陳亮、王全、司礼監官劉思忠監刊（十一、十八、二十二、二十七）、比丘満起（十五）、龔名、	賀伏、楊遇春、周可、鐘？保、劉鎖、李佛、劉庸、	子賢、高□児、陳号、	葉？益、羊、今保、陳、文得、官保、汪春保、戴民用、呉、勝保、	黄五、鄭孟□、鄧始俚、阿添、趙、薛志良、魯、林伯福、辛、范魯、	黄掬生、呉玄生、陳、郭、景生、信中、徐六孫、羊、今保、熊、文翁、劉中、劉忠、朱文、忽、范魯、	李、辛、豪、庠時用、呉、馬、徐、弓、鄭孟□、
虫害、破損、補筆あり、	表表紙破損、虫害、補筆あり、ムレ、	虫害、補筆あり、ムレ、	虫害、破損、補筆あり、表紙の裏打ちに『本草集要』の一部を使用、	虫害、破損、補筆あり、	虫害、「乾隆五十二年五月初一日…」、	虫害、	虫害、補筆あり、	虫害、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑲

494	493	492	491	490	489	488	487	486
1539	〃	1534	1533	〃	1532	1531	〃	〃
約十	〃十一	〃十	〃八	〃五	〃四	何一	〃十	〃八
金光明經文句記　巻第四	〃　巻第三	觀音義疏記　巻第二（四明沙門知禮述）	觀音義疏　巻下（天台智者大師説　弟子灌頂記）	〃　巻第三	觀音玄義記　巻第二（四明沙門知禮述）	觀音玄義　巻上（天台智者大師説　弟子灌頂記）	〃　巻第五之二	〃　巻第四之四
21	18	15	20	19	26	(20)	22	18
						○		
E							E	
b							i	
胡均祥、趙道□、余、記保、公祀、名三、趙□住、楊奇一、立如、	周？藍、黄以□、徐、	戴文達、道仔、	馬仔、李和、蔡、曹関蓮、	張、熊、李、華、葉？、泉一、恵浄、	何斗□、劉、敬宗、謝、良記、徐孫、黄、趙文、善□、高得保、陳細保、占、宗善、	毛、楊奉□、陳三、陶、関生、朱、	文記、張信、張関、黄奴子、劉廣、朱祖、金聚、呉成、	周狗児、王士賢、班道、劉、
表表紙及第一張の第一～第四折までなし、破損、「乾隆五十二年五月十一日…」、	虫害、	破損、虫害、補筆あり、	題簽は「観音玄義巻下」とす、虫害、破損、	破損、	破損、補筆あり、	扉絵一部破損、虫害、ムレ、	虫害、破損、「乾隆五十二年五月初二日…」、補筆あり、ムレ、	表紙の裏打ちに『本草集要』の一部を使用、虫害、補筆あり、
39	〃	〃	〃	〃	〃	34	〃	〃
1786	〃	1729	1728	〃	1727	1726	〃	〃
〃	〃	⑳	〃	〃	〃	〃	〃	⑲

503	502	501	500	499	498	497	496	495
〃	1589	〃	〃	1576	1575	1551	1547	1541
〃 四	跡 三	〃 八	〃 七	〃 六	丹 五	〃 十一	煩 二	法 十
〃 巻第四	出三藏記集　巻第三 （梁釋僧祐撰）	〃 巻下	〃 巻中	華嚴一乘教義分齊章　巻上 （京大薦福寺沙門法藏述）	佛遺教経論疏節要 （晉水沙門淨源述）	四念處　巻第三 （天台山修禪寺智者大師説）	請觀音經疏闡義鈔　巻第一 （錢唐沙門釋智圓述）	佛説觀無量壽佛經疏 （天台智者大師説）
	17	26	39	20	26	18	19	24
		F						E
	e	a						a
	王巳□、	劉、密仕、賢、張佛□、普賢、陳康孫、	朱保孫、王道□、姜□圣、舒真、姚、高寓、章行、	王道□、山、劉志中、沈、李茂遠、宗、程、翼、比丘滿起、思庸、許阿□、胡饒、	彦、戴、彬、付汝林、欒五、劉伏生、胡饒、	黄、□善、呉、李□保、胡玉□、	李涼、呉、楊、熊建中、	敬宗、楊、弟俚、桂、真見、胡、何斗保、	胡名観、鄭弟、程、臧、
	表表紙及第一張の第一折のみ、	巻首破損、	「乾隆五十二年六月初乙日…」、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	題簽は「遺教経疏節要」とす、補筆あり、	題簽は「請觀音經疏闡義鈔巻第三」とす、補筆あり、破損、	題簽は「請觀音經疏闡義鈔巻第二」とする、巻首に「請觀音經疏闡義鈔序」あり、	虫害、破損、「乾隆五十二年五月十一日…」、
〃	55	〃	〃	45	40	46	39	37
〃	2145	〃	〃	1866	1820	1918	1801	1750
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑳

512	511	510	509	508	507	506	505	504
〃	1598	〃	1591	〃	1590	〃	〃	〃
〃 二	宗 一	〃 六	郡 三	〃 九	〃 八	百 五	〃 十	〃 六
〃 巻第二之上	開元釋教録　巻第一（唐庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第六・七	衆經目録　巻第三（隋翻經沙門法經等奉勅撰）	〃 巻第四	衆經目録　巻第三（隋仁壽年翻經沙門及學士等撰）	〃 巻第十五	〃 巻第十	〃 巻第六
23	30	20	17	8	26	(19)	23	13
	○							
							A	
a	m	b	n	g			b f	e f
官保、呉、李、林、簡、王真□、文翁、比丘満起（十八）、信士鄒昴妻徐氏善榮（二十一）、	呉玄生、陶□同、羊、今保、成、鄧□俚、民用、支添右、汪春保、勝保、鄭、	熊佛保、劉尚□、李、張、謝太、	朱、呉官生、康敬、	李彬、戴敏、	思敬、全人、孫、毛、徐、遜、謝友中、胡、蔡、義、	謝、鄭福□、田奴、	仕賢、汪、	信男邵宣刊、陝西僧人常人□□□安刊、郭覚隆？（十二）、
表表紙なし、巻首破損、	巻首に「序」あり、補筆あり、	題簽「衆經目録巻第六之七」、		破損、	巻首破損、	巻首巻末破損、	「乾隆五十二年六月初五日…」、表表紙及第一～第二張の第三折までなし、巻末破損、	巻末破損、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	2154	〃	2147	〃	2146	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑳

521	520	519	518	517	516	515	514	513
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 五	〃 四	〃 三	泰二	〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三
〃 巻第十一上（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十	〃 巻第九	〃 巻第八	〃 巻第六（唐庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第五	〃 巻第四	〃 巻第三（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第二之下（西崇福寺沙門智昇撰）
19	27	29	32	28	35	36	（4）	20
				C				
m				a		a		
万、霍、李成、楊、同仔、晏□圣、	浄住、孟起宗、葉？寄官、関生、万友成、	姜、趙文、同仔、李季、生住、張、袁川鼻、高、章、	陳、高、景清、侯圣、	鄭音生、劉中、付徇、弘成、喩信中、呉、李周、馬、陶、陳、曹、徐六孫、券童、鄭寄生、官保、	汪、朱文、忽、黄掬生、占、勝保、余、劉、□益、簡、義謙、趙阿添、官保、薛志良、孟、王春仔、	支添右、雇、羊、受、徐成、時用、	余、	呉、阿天、郭景生、張童□、劉中、徐、馬、薛志良、喩信中、比丘常然淮同子才王氏刊（四）、
補筆あり、	補筆あり、	ムレ、補筆あり、	巻首破損、補筆あり、	「乾隆五十二年六月初九日…」、補筆あり、	補筆あり、	巻首破損、補筆あり、	破損、「宗字函開元釋教録第三巻缺第廿一廿二板又缺廿五廿六」の題簽あり、	巻首破損、内題の下の函号函次なし、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	㉑	〃	〃	⑳

531	530	529	528	527	526	525	524	523	522
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 七	〃 六	〃 五	〃 四	〃 三	〃 二	岱 一	〃 八	〃 七	〃 六
〃 巻第十八	〃 巻第十七	〃 巻第十六	〃 巻第十五	〃 巻第十四（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十三下（西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十三上（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十二下（西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十二上（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃 巻第十一下（西崇福寺沙門智昇撰）
25	29	30	37	35	26	23	24	23	22
						○			
F							F		
i	i	a i	h					g	
周壽、文中、思庸、興、得名、廖英二、許真児、	許、呉、江得、朱景方、周普庵、周壽、汪童、	付、金伏来、興、劉道、	劉志中、王、高寓一、□彦、黄、姚、彦四、澄、章、	朱保孫、周今、道児、彭玄達、伐工、	廖、生、王、宗厚、肖晋、	章、呉、拝兒、彦、朱景方、劉道、黄丙、戴、	景清、善□、関生、高山甫、徐、王、	高、黄、付原、関保、付従善、楊、	善、呉、李季、王、劉还、
破損、「乾隆五十二年六月初拾日…」、	補筆あり、	破損、補筆あり、	巻首破損、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、「乾隆五十二年六月初九日…」、補筆あり、	虫害、補筆あり、	補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	㉑

541	540	539	538	537	536	535	534	533	532
〃	1608	1607	〃	〃	〃	1599	〃	〃	〃
〃七	城六	雞七	〃七	〃六	〃五	〃四	〃三	〃二	禪一
〃　巻第五	佛祖統紀　巻第四	禪宗頌古聯珠通集　巻第七	〃　巻第四	〃　巻第三	〃　巻第二（崇福寺沙門智昇撰）	開元釋教録略出　巻第一（庚午歳西崇福寺沙門智昇撰）	〃　巻第二十	〃　巻第十九下	〃　巻第十九上
24	15	25	27	25	32	28	27	20	25
									○
			F						
									n
王継道、王貴、張伯揚、定保、	諶恵、呉、	劉□峻、庠、	姜、保、呉、堯、	万道名、	槐、高受、受仔、鄭、	梁、	魯尚児、	許真、魯尚児、鉄観、王仲安、	高、方道名、黄貴、
表表紙及第一張の第一～第四折までなし、虫害、破損、補筆あり、	表表紙及第一張の第一～第四折までなし、破損、補筆あり、	表・裏表紙及第一・第二張なし、破損、補筆あり、	破損、「乾隆五十二年六月初十日…」、補筆あり、	巻首巻末破損、補筆あり、	虫害、補筆あり、	破損、補筆あり、	補筆あり、	補筆あり、	破損、補筆あり、
〃	49		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	2035		〃	〃	〃	2155	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	㉒	〃	〃	㉑

550	549	548	547	546	545	544	543	542
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
池三	〃七	〃六	〃五	昆四	〃十三	〃十二	〃十	〃八
〃 巻第三十三	〃 巻第二十六	〃 巻第二十三～二十五	〃 巻第二十一・二十二	〃 巻第十七～二十	〃 巻第十一・十二	〃 巻第十	〃 巻第九	〃 巻第六（宋景定四明東湖沙門志磐撰）
17	31	31	18	16	19	24	(14)	(9)
					A			
徐、付、生仔、迪、鄭、孟裕、文敬、	付丑俚、趙定保、阿□、陳子寄、仲敬、余、朱、鄧、	黄傑八、子恭、杉、禄受、何始仔、	徐、呉、宗三、劉公保、趙、	付、胡均祥、丘、張礼、善一、黄、羅文孫、	藍再興、朱真旺、方志□、林仔、	黄、阮、子高、御用監奉御兪隆刊□丘、趙唆住？、	楊賢、万爵、侯暹、	
虫害、破損、	巻首巻末破損、表表紙及第一張の第一折なし、補筆あり、	表表紙及第一～第十三張の第四折までなし、虫害、補筆あり、	題簽「佛祖統紀巻第二十二」、破損、	巻首破損、題簽「佛祖統紀巻第十七之二十一」、	巻首破損、「乾隆五十二年六月廿二日…」、表紙の裏打ちに『易経大□奇瑞』の一部を使用、	虫害、補筆あり、	虫害、補筆あり、	虫害、破損、補筆あり、
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	㉒

558	〃	〃十一	〃	巻第五十四	16		B	m		黄得升、宋賢、趙継祖、方道名、	「乾隆五十二年六月廿八日…」、虫害、破損、補筆あり、	〃	〃	〃
557	〃	〃九	〃	巻第五十二・五十三	21				○	胡、廣、	虫害、題簽「佛祖統紀巻第五十一之二」、補筆あり、	〃	〃	〃
556	〃	〃七	〃	巻第四十九	18					黎、馬亮之、張保子、汪呈、梁、右顕、	虫害、	〃	〃	〃
555	〃	〃六	〃	巻第四十八	24					惟存、李伯清、蔡、史衍里、劉、得淵、	表表紙及第一張の第三折までなし、虫害、巻末破損、補筆あり、	〃	〃	〃
554	〃	〃五	〃	巻第四十六	15					伏振、夏民中、	表表紙及第二張の第三折までなし、巻末破損、補筆あり、	〃	〃	〃
553	〃	〃三	〃	巻第四十四	(13)					劉、時、	虫害、破損、補筆あり、	〃	〃	〃
552	〃	碣一	〃	巻第四十二	25	○				劉秋生、丘云、夏名仲、楊孫仔、徐、	虫害、ムレ、補筆あり、	〃	〃	〃
551	〃	〃九	〃	巻第三十九	32					楊孫仔、阮、劉成、周監、	巻首破損、虫害、補筆あり、	〃	〃	㉒

解

説

はしがき

明朝が建国されて間もない洪武五（一三七二）年、太祖朱元璋の命によって大蔵経の開板が着手され、その完成はその子永楽帝の一七（一四一九）年であったといわれる。これが一般に南蔵と略称される南京報恩寺版大蔵経である。その後永楽帝によって北京でいわゆる北蔵が開板されると、明朝はここに勅版たる南北両蔵が併存することとなった。北蔵は北京の宮中に蔵され、特旨をもって天下の名山古刹に分賜されるのみであったが、一方民間の要請に答えたのが南蔵であった。南蔵の板木は南京報恩寺に蔵され、実費をもって一般請経者に頒たれた。その印造は明朝一代を通して行なわれ、次の清朝初期まで継続されていた。

ところでこの南蔵は、北蔵とともにあまり日本へは搬出されなかったようで、現在までその存在が確認されているのは、山口県快友寺の数千巻、龍谷大学図書館の数巻などに過ぎず、ことに快友寺所蔵の南蔵は清の順治年間（一六四四～六〇）に印造されたものである。このように南蔵の遺存が極めて乏しく、そうしたこともあってか、宋元諸版の大蔵経研究に比べ南蔵の研究は著しく遅れており、どのように開板されそして印造されていたのかといった具体的事項さえ判然としない状況にある。しかし南蔵には、宋元諸版に入蔵されたことのない経典が八〇種余りあり、それがその後の北蔵や明末の嘉興蔵の底本となり、その嘉興蔵が我が国の黄檗版（鉄眼版）や縮刷蔵、卍蔵、大正蔵などの底本となっているなど、南蔵がその後に与えた影響は決して小さくないのである。

さて近年、立正大学図書館に南蔵の一部が所蔵されていることが判明した。印造されたのは万暦一八（一五九〇）年であるが、明末とはいえ、まとまった明代のものとしては今のところ唯一のものである。先に述べた如く、その遺存が稀な現状からして、この明末に印造された立正大学図書館所蔵の南蔵には、多くの事実がその中に含まれているものと思われる。以下、現時点までに判明した事項について報告し、大方のご教示を仰ぐとともに、南蔵研究の一助となれば幸いである。

一、現存状況

立正大学図書館所蔵の南蔵（以下立正本と略す）の現存状況は、二六八部、五五八巻である。万暦三四、五年頃に制定された『大明三蔵聖教南蔵目録』によれば、当時の南蔵の構成状況は、一、六一〇部、六三六函、六、三三六巻であるというから、立正本の数量はその約一割にも満たない。いま、上述の『大明三蔵聖教南蔵目録』によって、立正本の現存状況を示すと、次

表のようになる。

	現存数	全体率
大乗経般若部	0帖	0％
宝積部	9帖	1.6％
大集部	0帖	0％
華厳部	2帖	0.4％
涅槃部	0帖	0％
五大部外重訳経	46帖	8.2％
単訳経	6帖	1.1％
小乗経阿含経	22帖	3.9％
単訳経	13帖	2.3％
宋元入蔵諸大小乗経	23帖	4.1％
西土聖賢撰集	16帖	2.9％
律　大乗律	0帖	0％
小乗律	3帖	0.5％
論　大乗論	28帖	5％
小乗論	4帖	0.7％
続入蔵諸論	15帖	2.7％
此方撰述	371帖	66.5％
計	558帖	

この表から知られるように、立正本の約七割が此方撰述部で占められており、南蔵の約一割に相当する『大般若波羅蜜多経』を始めとする、いわゆる五大部経が殆ど現存していない。

二、装訂・版式

立正本は、縦三三・五糎、横一一・二糎前後の折本で、表表紙は青地の厚紙に紺の絹が被せてあり、裏表紙は黄色の紙製である。表表紙には縦一八・八糎、横三糎程度の黄色の題簽があり、それには経名とともに、その巻の函号が黒丸に白抜きの千字文をもって記されている。

一張は、横幅約五六糎で三〇行五折から成り、一折六行一七詰である。しかし、一行一八字または二〇字詰箇所の張もいくつか確認される。上下には界線があり、界高は二四糎前後である。これも板木によって異なり、特に補刻を施した張は、未補刻の張の界高より若干短めになっている。

各張は、最初の谷となる版心に「函号　函次（張数）」がある。函次や張数に使用される「一」は「乙」とも記され、また黒丸に白抜きの乙字を使用する巻もある。各巻の最終張の版心には、たとえば「十八末」として、張数に「末」字を付して最終張であることを知らせる。一巻の張数は最多のもので四〇張、最も少ないもので七張である。一字は縦横一・三糎前後で、割注などには縦横とも〇・七糎前後の小字を使用している。

各巻は、その巻の位置を示す千字文と同一函号内の順序を示す函次が内題の下方に記されているが、『宗鏡録巻第五』（本目録通番二六六）は、本来の函号函次である「阿五」の上に「済五」（陰刻）の函号函次が存在する。元代の大蔵経である普寧寺版や磧砂版の『宗鏡録』の函号のひとつが「済」であることから、南蔵はその版下に両蔵のいずれかを使用し、その際、偶然に元版の函号函次が遺ってしまったものであろう。

立正本は、全般に亙って本文中の空白部分に花柄や卍などの

模様が散見される。巻末には音釈を付すものがあり、全体の三二％に相当する一七八巻に確認される。中には「音字見後巻末」とあって、次の巻の音釈と併記する巻がある。また一巻中に複数の短い経典を合せているものは、その題簽に「二経同巻」「三論同巻」などと記す。

後述するように、立正本は民間業者の印行によるものであるが、表・裏表紙の裏打ちに他の書籍や絵入の経典の一部が使用されている巻がある。書名が判明するものとしては『易経大□奇瑞』、『妙法蓮華経特品第十三』、『本草集要』などがある。就中『本草集要』は、明・焦竑編『国史経籍志』巻四・下・子類によれば、その著者は王倫で、全八巻であったという。この『本草集要』は、現在日本では嘉靖八（一五二五）年刊本が杏雨書屋に、万暦三〇（一六〇二）年刊本が宮内庁書陵部に、江戸時代写本が内閣文庫に所蔵されているに過ぎない稀覯本のようである。

また、後述する経鋪Eすなわち周鋪が印造した経典に付された木記・韋駄天像と刊記の張り合せ部分を光源に透かすと、「唵多哩多哩咄多哩咄咄多哩咄多哩薩訶」の陀羅尼と思われる一文が確認される。これは周鋪が印造した経典だけに見られるから、当時同経鋪で印造されていた陀羅尼経典の一部で、それにも立正本と同じ木記・韋駄天像が使用されていたことが知られる。

三、扉絵

各函号の第一巻の巻首には、五折に亙る釈迦説法図（縦二一糎、横四八・三糎）と一折の経牌（縦二一糎、横九・五糎）とから成る扉絵がある。釈迦説法図が五折に亙っているため、経牌の一折分を継ぎ足している。経牌には「皇帝萬歳萬萬歳」とある。

立正本中には扉絵が四〇例確認されるが、そのうち九例は、釈迦説法図の左下隅に「山西心源縣僧善恵和湛玉関大給鄧孝禁明池暨衆姓重刊」とあり、構図も細部において相違がある。この重刊記に見られる山西心源県は、後述のように立正本の当初の所蔵寺である法住寺があった潞安府長治県に近く、あるいは上記の僧侶らが法住寺に至り扉絵を重刊したとも考えられるが、ただ『廣弘明集巻第七』（本目録通番二三四）の扉絵にもこの重刊記があり、その扉絵中に「保安寺」の朱印が押印されているのである。もし所蔵寺で重刊したのならば、他寺の朱印が押印されることはありえない。ところで、後述のように立正本は、複数の民間業者の手によって印造されたものであるが、各経鋪は印経の前にその紙に請経者の印を押していたようであるから、この「保安寺」の朱印が見える扉絵も、南蔵を印造していた南京の経鋪で印造されたものであろう。因に先の重刊記が確認される九例中、四例は後述の経鋪徐雲泉で印行されたものである。残りの五例は経鋪名が記された巻が散佚しており不明であるが、おそらくそれらも徐雲泉で印行されたものであろう。つまり、

経鋪徐雲泉保有の扉絵は、印造による摩滅などによって使用に耐えられないので、立正本中に確認される上述の重刊記に見える山西心源県の諸僧が共同出資をして、扉絵の補刻を行なったものと考えられる。

なお、立正本中の扇絵と同一の構図を持つ南蔵が、龍谷大学図書館に所蔵されている。同図書館には、『止觀輔行傳弘決巻第二之三』『四十二章經他二經』『付法藏因緣經巻第一』『薬師本願功德經』など四巻が所蔵されている。このうち同一の扉絵を持つのは『四十二章經他二經』『付法藏因緣經巻第一』の二巻である。両所蔵の扉絵を照合してみたところ、細部に至るまで酷似している。ただ経牌のところに立正本では「皇帝萬歳萬萬歳」とあるが、龍谷大学図書館所蔵の南蔵中のそれにはたんに「皇帝萬萬歳」とあり、経牌自体の構図も若干異なる。ともかく、扉絵に限ってみれば、両者は同一の板木を使用して印造されたものであることは、間違いないであろう。しかし、龍谷大学図書館所蔵の南蔵の印造時期は、今のところ明らかにしえない。

四、刊記

各函号の最終函次の巻末には刊記があり、その全文は次のとおりである。

萬暦十有八年庚寅歳山西潞安府長治縣太平鄕明道都一里角原村居住奉佛信官趙繼先　同妻韓氏周氏　男信官趙連邊和　壁　妻李路秦氏　男庠生趙崑良壁　妻路汪氏　長孫庠生趙國秀　妻崔氏　各發誠心喜捨印造　大蔵尊經一蔵供奉法住寺轉輪蔵永充供養計六百三十八函惟願見聞隨喜同種善因了悟真常齊登彼岸凡向時中吉祥如意

この刊記によれば立正本は、万暦一八（一五九〇）年、山西潞安府長治県（現山西省長治市）在住の趙継先が、その妻子とともに南蔵一蔵を購入し、同県の法住寺に供奉したものという。この趙継先なる人物及びその妻子は、該当する歴代地方志などには記録されておらず、いまのところ確認されない。ところで明末に著わされた『棗林雜俎』義集・蔵経の条に、

今南京刊板、蔵禮部、僧衆非厚費三四百金不能得。北京刊板、在内府、非特賜、則秦請餘不能得。

とあるように、当時南蔵は極めて高価であり、一般民衆が容易に購入できるものではなかった。さらに長治県は、いわゆる「山西商人」の輩出地のひとつでもあった。以上のことを併せ考えれば、あるいは趙継先は山西商人のひとりであったかもしれないが、後日を期したい。また、乾隆『潞安府志』巻一〇・古蹟・寺観によれば、法住寺は県城の西門外にあり、北斉時代に建立され、隋の開皇二（五八二）年に重建されたという歴史を持つ寺である。

先の刊記によれば、趙継先は発心して南蔵を購入し、それを法住寺に供奉したといっているが、その契機となった事柄につ

いては何も触れていない。ところで乾隆『長治県志』巻二八・雑志によれば、

萬暦十六年、郡中荒疫、（中略）城中死者三萬人。

とあり、『明史』巻二〇・神宗紀・万暦十六年三月の条にも、

山西・陝西・河南及南畿・浙江、並大饑疫。

とあるように、山西方面は趙継先が南蔵を購入する三年前に大規模な飢饑・疫病に見舞われており、多数の死者を出している。こうした当時の社会状況を考えると、趙継先及びその妻子は、饑疫で死亡した人々の供養をおこなうため、南蔵を購入し法住寺に供奉したのではなかったろうか。

いまひとつ注意したいのは、先の刊記に見える「六三八函」とする南蔵の函数である。万暦三四年ごろ制定された『大明三蔵聖教南蔵目録』では、南蔵の函数を「六三六函」としているのである。従来、この目録の函数が、明初からの南蔵の函数であったように考えられている。ところで、近年李希泌氏が「鄭和印施《大蔵経》題記」（『文献』一九八五―三）なる論文の中で、明初の南海遠征で知られる鄭和が、永楽一八（一四二〇）年、新たに大蔵経一蔵を印造し、それを雲南の五華寺に喜捨したが、その大蔵経が現在雲南省図書館に所蔵されていることを述べている。永楽一八年という時期からすれば、この大蔵経は南蔵に間違いないが、同氏の論文中にはその題記が掲載されており、それによると当時の南蔵は「六三五函」であったという。このように明初の南蔵は全六三五函から成っていたようである。さらにこのことは、以下の史料からも伺える。すなわちかつて西安臥龍寺・開元寺などから発見された磧砂版大蔵経が、一九三三年に上海の影印宋版蔵経会から『影印宋磧砂版蔵経』六〇函として刊行された。その欠落部分は普寧寺版や南蔵で補われている。第五五八冊の『宗鏡録巻第一百』は南蔵で補われたものであるが、偶然にも刊記が採録されている。すなわち、

大明國陝西西安府咸寧縣南景里居住奉佛信士王義・王礼、（中略）謹發誠心、施財印造大蔵尊經一全蔵計六千三百五十卷（中略）正統七年壬戌季九月　吉謹意

とある。南蔵は凡そ一〇巻を以って一函とするから、先の鄭和の喜捨した南蔵の函数と合致する。このように二つの題（刊）記からも明らかなように、明初、少なくとも正統七（一四四二）年ころまでの南蔵は全六三五函であったことが知られる。それが万暦一八年には六三八函と増加し、さらに同三四年には六三六函と減少している。この増減がいかなる事情によるものかは、俄には断言できないが、とにかく立正本は、万暦三四年の『大明三蔵聖教南蔵目録』制定以前における南蔵の函数が、六三八函であったことを今日に伝える重要な史料といえる。

五、経鋪

前項の刊記の後には、いわゆる蓮牌木記と韋駄天像が二折に亙ってあり、さらにそのどちらかには、その経典を印造した経鋪名が明記されている。すなわち、

A　南京聚宝門裡□坊巷口経房徐後山印行
B　南京聚宝門裡皇殿廊経房徐後山印
C　南京聚宝門外報恩寺前徐龍山印
D　南京聚宝門外徐雲泉印
E　聚宝門裏西廊周鋪印行
F　双橋門裏曽甫印行

などである。このように、一蔵中に数種の経鋪名が見られるのは、これら経鋪が印経・製本を分担して行なっていたことを示すものである。

南蔵は勅版であり、南京礼部の管理下にあったが、嘉靖年間頃から民間業者が印造に参画するようになったらしい。しかしその背景についてはよく分からない。ところで、嘉靖の末から万暦末期にかけて、南蔵の板木は当初の所蔵寺である報恩寺から、前掲の経鋪の手に渡っていたのではないかと考えられる。すなわち報恩寺は、嘉靖四五（一五六六）年に落雷に遭って炎上しており、ただ僧房を残したのみで、ほとんどが焼失してしまったという。『金陵瑣事』巻三・報恩寺回禄に、

嘉靖丙寅（四五、一五六六）年二月十六日、異常風雨、雷火焚之。不両三時而盡。獨僧房無恙。

とあるから経房も難を逃れたとは思われない。報恩寺の再建は万暦三四年頃であるから、それまでのおおよそ四〇年間、寺の運営は十分機能してはいなかったであろうし、また寺内での印経活動のみが継続されていたとは考えられない。しかし立正本は万暦一八年に印造されたものであるし、また後述のようにその板木には、元末から明初にかけて江南で活躍していた刻工者名が確認されているから、多少の被害はあったにせよ、板木は無事であったことになる。したがって考えられることは、報恩寺が再建されるまでの暫定的処置として、立正本に見える各経鋪に板木を移管し、受注から印経・製本・請経者への引渡しなどの一切を委ねていたのではなかろうか。立正本は、そうした特異な時期の印造に係るもので、当時の印造活動を知る上で貴重な例証といえる。

それでは、立正本に見える各経鋪は、当時どのように南蔵を印造していたのであろうか。言換えれば、各経鋪が南蔵の板木をどのように分担保有していたのか、ということである。

立正本中に確認される経鋪は、「徐後山」が四例、「徐龍山」が一六例、「徐雲泉」が一二例、「周甫」が一〇例、「曽鋪」が一四例の計五六例である。いまこれらの経鋪名が見える経典を、前掲の『大明三蔵聖教南蔵目録』の編成によって示したのが次の表である。

大乘経般若部	(1～19)	
宝積部	(20～53)	E
大集部	(54～77)	
華厳部	(78～104)	
涅槃部	(105～111)	
五大部外重訳経	(112～392)	C B C
単訳経	(393～533)	F
小乘経阿含経	(534～687)	F F
単訳経	(688～775)	F F
宋元入蔵諸大小乘経	(776～1074)	F F F
西土聖賢撰集	(1075～1224)	F F
律　大乘律	(1225～1249)	
小乘律	(1250～1307)	
論　大乘論	(1308～1397)	C C C
小乘論	(1398～1434)	D
続入蔵諸論	(1435～1457)	D
此方撰述	(1458～1610)	D D D D D D D D D D C C C C C C C C C E E E E E E E E E F A C F F F A B

此方撰述に集中しているのは、立正本の現存状況によるものである。この表で注意されるのは、単訳経から西土聖賢撰集にかけては、Fすなわち曽甫が一定して見えていることで、また此方撰述には全ての経鋪が確認されることである。つまりこのことは、たとえば般若部を徐後山が、宝積部を徐雲泉がといったように、各部ごとに経鋪がその板木を保有（印造）していたのではないことを示している。いま少し具体的に見ると、『宗鏡録』（本目録通番二六二～三四一）では、巻第三〇まではDすなわち徐雲泉が印造しており、巻第三一から四〇にかけては経鋪名が不明で分からないが、巻第四一以降はCすなわち徐龍山が印造している。また『開元釋經録』（本目録通番五一一～五三四）は、巻第一から巻第六までをCすなわち徐龍山が印造し、それ以降はFすなわち曽甫が印造している。

立正本はその前半に現存する経典が少なく判然としないが、以上のことから知られるように、同一経典、殊に巻数の多いものは複数の経鋪が印造している場合もあり、単に南蔵の編成を基準として各部ごとに経鋪が板木を保有（印造）していたのではないようである。このような現象は、一時的ではあるにせよ、南蔵の板木を民間業者が保有していたことと関係があろう。『大明三蔵聖教南蔵目録』に付せられた「請経条例」によれば、南蔵は一蔵の印造以外に般若・宝積などの四大部経を注文に応じ、年間二〇部を別造していたという。同条例は、立正本が印造されてから後に制定されたものであるが、ことさら年

間の部数を制限していることから、それ以前においてはかなりの部数が印造されていたとみてよいであろう。しかもこのような制限措置を設けたのは、それだけ四大部経を求める請経者が多かったことによるものであろう。

立正本には、般若部を始めとする四大部経がほとんど現存していないが、如上のような後半部の経鋪の印造状況から類推すると、四大部経の板木も各経鋪が均等に保有していたと考えてよいであろう。こうした措置がとられたのは、四大部経などの需要のある経典を一経鋪が独占すれば、利潤が絡むだけに多くの問題を引き起こしかねなかったからであり、そこで一蔵を通してその板木を均等に各経鋪に分担保有させる配慮がなされていたためではなかったろうか。その結果が、前掲の表に見られるような経鋪の分布となって現われているように思われる。

ところで、前掲のA～Fの経鋪中、特に注意したいのは、BとCが全く同一の蓮牌木記と韋駄天像を使用していることである。加えてBの中には以前の経鋪名が切り取られ裏打ちした上からBの印が押されてあるものが二例確認された（本目録通番〇三五、五五八）。切除部分を注意してみると、切り残された経鋪名の一部があり、それが位置・字形ともCのそれに符合する。さらにBは、所在地・木記・韋駄天像は異なるものの、経鋪名が一致することから、Aと同一の経鋪であろう。つまり、CとBは木記と韋駄天像が同一であること、Bの中にはCの経鋪名を切り取ってBの経鋪名を捺印したものがあること、さらにBとAは経鋪名が一致することなどから、A＝BとCは同族関係にあった経鋪ではなかろうか。

六、印記

立正本の全体には、当初の所蔵寺である「法住寺」の朱印（縦三糎、横一・五糎）が押印されている。その位置は一定せず、中には経面の裏や一切の印記が押されていない巻もある。ところで、立正本にはこの「法住寺」印以外に次のような印記が散見される。

a「顕聖寺」（縦三・三糎、横一・五糎）
b「尹東泉記」（縦三・七糎、横一・四糎）
c「覚山」（縦二・四糎、横一・三糎）
d「清流寺」（縦二・五糎、横一・一糎）
e「平原郡」（縦二・三糎、横一・二糎）
f「朝陽／寺造」（縦二・二糎、横一・二糎）
g「法華／菴記」（縦一・二糎、横一・一糎）
h「観音寺」（縦二・四糎、横一・三糎）
i「四寺」（縦一・三糎、横一・二糎）
j「保安寺」（縦二・九糎、横一・四糎）
k「閩崑？（以下欠）」（？、横四糎）
l「古雄天／寧寺造」（縦二・三糎、横一・二糎）

m「徐氏蔵／経閣記」（縦二・三糎、横一・七糎）
n「庚寅定業／敬菴右造」（縦四糎、横二・一糎）
o「華□記」（縦三・六糎、横二糎）
p「圓空／界益」（縦一・六糎、横一・六糎）

このうちkのみ黒印で、ほかは全て朱印である。nの「庚寅」は、立正本の印造された万暦一八年の干支に符合する。同一張に複数の印記は認められない。右の印記以外に判読不能なものが二三例見られる。

上記の印記を、それが押印されている経典を印造した経鋪ごとに表記してみると、次のようになる。

経鋪	印記
A B	b, e, f, m,
C	a, b, c, f, g, k, m, p,
D	a, b, c, g, j,
E	a, b, c, g, i, l,
F	a, g, h, i, m, n,

この表から知られるように、各印記が経鋪間に共通して見られる。これらの印記は、立正本の「法住寺」印と同様、かつて上述の各経鋪において印造された南蔵の請経者のものであろう。

それなら、何故このように多くの印記が立正本中に散見されるのであろうか。所蔵印はその性質上、購入者が購入後に自己の印記を押印するのが一般的な手順と思われる。ところで、上記の印記の中には、糊代部分に押され、その上から前後の張や表紙を張り合わせてあるものがいくつか確認された。こうした現象は、予め押印しておき、然る後に張り合わせなければ起こりえないものである。したがって、請経者が購入後に自己の印記を押印したのではなく、印経の段階で経鋪が請経者の印までも製造し、押印していたのではなかろうか。さらに注目すべきことは、『妙法蓮華經玄義巻第五下』（本目録通番四二七）の巻末にある前掲の趙継先の刊記に、bすなわち「尹東泉記」の朱印が押されている点にある。立正本は趙継先及びその妻子が購入したものであるから、完成後の刊記に他の請経者の印記が押印されることは、通常では考えられない。以上の点から考えられることは、各経鋪は、印経に必要な紙を用意し、印刷する以前の紙にその請経者の印記を予め押しておき、然る後に印経製本する仕組みになっていたのではなかろうか。印経には多くの刷り損じなどが伴うであろうが、予定枚数を越えてしまった場合、それを補う必要から、それ以前の印造で余った紙を利用せねばならなくなったのではなかろうか。そう考えるならば、

立正本中に、上記の如き数種の印記が散見される反面、「法住寺」印がまったく見られない経典や、数巻の全ての張にaすなわち「顕聖寺」の印が押印されている巻が存在することも了解されるであろう。

七、刻工者

刻工者名は、書籍の開板年代を判定する手掛かりを与えてくれる重要な資料でもある。宋元諸版の大蔵経では、刻工者名は巻首の経名の下または版心などに見られるが、南蔵の場合、板木の外枠に函号・函次・張数などとともに刻み込まれている。ここは前後の張との糊代部分にあたるから、通常表から見ることはできない。そこで光源に透かして判読する方法を採り、その結果、約二百数十名を確認することができた。本来この部分は、その板木を手掛けた刻工者の責任を示すもので、大蔵経本来の目的には直接関係しないためからか、不鮮明なものが多く、また俗字・略字が用いられており、判読不可能なものが相当数あった。

こうして得られた刻工者名を、長沢規矩也、阿部隆一、尾崎康の諸氏が作成された資料と照合したところ、元末から明初にかけて、開板もしくは補刻された書籍に見られる刻工者と共通する者二七名を確認することができた。いま書籍ごとに示すと次のようである。

○『遼史』『金史』『慈渓黄氏日抄分類』『唐文粋』『西山先生真文忠公集』『古今紀要』『古史』
　王保、黄保、陳厚、陳魯、潘晋、楊保、

○『晦庵先生文集』
　朱祖、徐成、李成、李和、

○『通鑑釈文弁語』『資治通鑑』
　陳七、

○『通鑑総類』
　芦顕、

○『文献通考』
　林伯福、陳文、

○『文選』
　高山甫、黄还朗、

○『史記』『宋書』『南斉書』『魏書』『周書』『南史』『北史』『隋書』『新唐書』（明初覆元大徳九路本）
　王安、王全、黄道正、呉五、子得、薛志良、楊成、

○『元史』（洪武五年刊本）
　何宗大、孫成、貝公亮、孟起宗、

洪武五年に開板が着手された南蔵は、永楽元年に完成したが、同六年、板木が置かれた天禧寺（後の報恩寺）が放火による被害を受けた際、その板木も悉く焼失し、同一〇年から一五年にかけて再刻され、同一七年には完成されたとし、前者を「洪武

南蔵」、後者を「永楽南蔵」と称し、全く別個のものであると考えられている。しかし、数こそ少ないが、如上のごとき元末から明初に活躍していた刻工者名が南蔵中に確認されたという事実は、「永楽南蔵」が「洪武南蔵」の板木を継承していたことを示す有力な証拠といえよう。したがって、「洪武南蔵」の版木は、永楽六年の火災で全てが烏有に帰したのではなく、かなりの版木が難を逃れて「永楽南蔵」に継承されたと見るべきであろう。

八、閲覧者

立正本には、同経典を閲覧した者の所属・姓名が、日付けとともに各函号の最終巻の刊記や木記・韋駄天像などの余白に墨書されている。全般に亙ってその名が見えるのは、立正本の当初の所蔵寺である法住寺が位置した長治県の小辛庄に住する段天章なる人物である。彼は、たとえば、

乾隆五十一年正月十七日長治県小辛庄民段天章閲看

などと墨書しており、その最も早い日付けは乾隆五〇（一七八五）年正月二一日で、最終は同五二（一七八七）年六月二八日である。前述のとおり立正本は不完全であり、ことに南蔵の首に置かれている般若部が現存していないが、段天章の閲覧は乾隆五〇年以前から始められていたことは間違いない。段天章の名は本目録の備考欄に示したように前後五五箇所にその名が見えるが、その日付けから明らかなように、南蔵の編成の順序に従って閲覧しており、彼はおおよそ一函号分の経典の講読を日課として定めていたらしい。

段天章以外にも数人が本蔵を閲覧している。とりわけ段天章に次いで多くその名が見られるのは、覚詠なる人物である。いま順を追って示すと次のとおりである。［（）内は本目録の通番を示す。］

○康熙三十三年蒲箔村廟覚詠閲一遍完出歩（四八）
○弟子詠禁歩看蔵（六三）
○五戒弟子覚詠禁歩看／蔵一周自康熙三十三年三月初一日起不拘□載閲完出門祝／皇王萬歳祈万民安康（七五）
○蒲箔村府君廟五戒弟子覚詠禁歩五載閲（一三七）
○五戒弟子覚詠禁歩四載看／経論二蔵間律圓戒后補（一四八）
○弟子覚詠禁歩五載随縁閲／龍蔵畢利洽十方（一八一）
○五戒弟子覚詠禁歩随縁閲／如来大蔵此諸経要集三十五年十一月十四日夜／畢／従康熙三十三年三月初一日為始（一九一）
○五戒弟子覚詠自康熙三十三年三月初一日／禁歩看／蔵利洽十方四大海水尚可斗量看／蔵功徳不可称計耳／住蒲箔村廟（一九七）
○此伝康熙三十五年十二月廿七日辰時／閲完（二一〇）
○此伝三十六年正月初二日黐時閲完（二一八）

○此集三十六年正月十三日二更閲完／利洽十方功霑法界（二四一）
○弟子覚詠禁歩四載閲畢（二八一）
○覚詠発心禁歩四載閲／蔵三十三年三月至三十六年完（三二五）
○五戒弟子覚詠自康熙三十三年三月／初一日禁歩閲／蔵三十六年十月一出歩（三五〇）

これによると覚詠なる人物は、先の段天章よりおよそ九〇年前の康熙三十三年三月から同三十六年十月に亙って本蔵を閲覧していたという。しかしこれも先の段天章同様全ての墨書ではないから、正確な日時を知る由もないが、ただ右の墨書には「五載」とも見え、彼もかなりの年月を費やしての閲覧であったわけである。なお覚詠の住していたという蒲箔村廟についてはいまのところ不明である。

覚詠以外にも数名の僧侶らが閲覧をし、同じ場所にその名と年月を記している。

○三十三年三月初一日啓建閲完出歩（四八）
○崇禎十二河頭圓通庵閲過一遍計□／無拘八？歳（四八）
○伝賢首正宗第三十代法主妙月朗三載閲完（一三七）
○伝臨済正宗第三十六世宗主沙門朗㝢志検閲二載（一三七）
○余吾鎮潮音菴比丘宗定閲経三載随縁看／龍蔵畢利洽十方成果包袱彼一時圓成／雍正元年三月初一日至四年圓満（一八一）
○康熙三十一年夏月有站上廟老僧如海自播貝葉□事人少知不化／十方本老五師恭茶后人看想（三二五）
○清康熙三十一年夏月站上廟老僧八十五歳大播一周（四〇五）

以上の者たちは、先の段天章や覚詠らに比べれば、その件数は非常に少ないが、やはり閲覧には二年から四年を費やしている。

ところで、以上の墨書の閲覧時期を見ると、明末の崇禎一二（一六三九）年から、清初の康熙、雍正、乾隆と前後約一五〇年間、法住寺近辺の僧侶らがそれぞれ数年を費やして一蔵を閲覧していたことが知られて興味深い。上述の僧侶らの所在地に府県名が付されていないことから、彼らはいずれも法住寺がある長治県近辺の者たちであったろうが、明末から清初にかけ、このように多くの僧侶が法住寺に至り、数年に亙って南蔵を通覧していたのは、当時山西南部で大蔵経一蔵を所蔵していた寺院が少なかったからであろう。

さらにこの墨書で注意されるのは、この立正本を「龍蔵」と称しているものが二例見られることである。周知のように龍蔵は、清の雍正、乾隆年間に北京において作成された勅版大蔵経の通称である。龍蔵とする上述の墨書も雍正、乾隆年間のものであるから、新造の勅版大蔵経と混同したものか、あるいは単に明朝の勅版大蔵経ということから龍蔵と表記したのかもしれない。

九、補刻

立正本は万暦一八年に印造されたものであるから、その板木は、明初に開板されてからおおよそ二〇〇年を経過していることになる。その間、その板木は印造や自然による摩滅や腐蝕などによって徐々に被害の度を増していったことであろう。事実立正本には、板木の摩滅によって生じた不鮮明な箇所が至るところに確認される。本目録の備考欄からも分かるように、殆どすべての巻に補筆が加えられているが、これは先に見た各閲覧者が閲覧時に補筆したものであろう。このことは、当時の南蔵の板木が相当に摩滅や腐蝕の被害を受けていたことを物語るものである。

南蔵は、南京礼部の管理下にあったが、このような板木を補刻補修する費用は、全国各地の信者からの喜捨に依存していたらしい。南蔵の補刻例の最も早いものは、いまのところ報告されているものでは成化一五（一四七九）年である。ところで立正本中にも補刻を施した部分が随所に見られるが、その場合、板木の外枠部分や版心などに、補刻費用を提供した者の出身地、所属、姓名などが記されている。いま本目録の刻工者名欄から抽出してみると以下のようである。

信士許普成、司礼監劉思忠刊、山西平陽府蒲州河津県百底里
捨板信士張世興、信士謝岩貴蕭妙善重刊、何覚剛、信官石恭、
蘇州府天宮寺定山刊補、善人呉覚傑○陳覚傑、陸政揚溥共施、
信官柴祥、会主僧人如考、趙輔、信女呉妙秀、善人君聡、信
官李全、河南汝州観音寺僧人古道、山西太原府比丘圓性、郭
覚隆？、比丘常然淮同子才王氏修刊、陝西僧人常人□□□安
刊、信士鄒昴妻徐氏善栄、覺城寺僧圓暁真鈴、王氏真全、郁昇
妻牛氏、信士劉昌仁男漢琳刊板一塊、信男邵宣刊、

これらのうち頻繁に見えるのが比丘満起、司礼監劉思忠、天宮寺定山である。就中司礼監劉思忠はその官職が示すように、かれは宦官であり、南蔵の補刻に宦官が関与していたことは注意されるところである。また補刻者の所在地を見ると、山西平陽府・太原府、蘇州府、河南汝州、陝西などといった遠方からの僧侶・信者があり、南蔵の影響の大きさを示すものといえる。ただ残念なことは、これらの補刻がいつ行なわれたかを示す年月が記されていないことである。ところで、立正本より約六〇年後に印造された山口県快友寺所蔵の南蔵と比較すると、その件数は遙かに少ない。しかしこれは立正本の現存状況が大きく影響していると思われ、一概には断ぜられない。またその表記方法についてみると、快友寺所蔵の南蔵には、補刻費用提供の動機を遂一示したものが多数見られるが、立正本中にはそうしたものは無く、単に出身地、所属、姓名を記すに止どまる。

なお、南蔵の字体は元版のそれに類似したもので、元から明初にかけて流行していた趙孟頫の書体を用いたと思われるが、補刻の際使用された字体の中には、後世明朝体の名称で知られる字体に近いものが見られる。明朝体が書籍に使用され始めるの

が、明の中期すなわち正徳から嘉靖年間にかけてであるという。おそらく立正本の補刻もその頃おこなわれたもので、そうした風潮を少なからず受けているものと思われる。立正本の補刻部分に使用された字体には、完全な明朝体こそ見られないが、部分的に明朝体の特長をよく表わしているところが随所に見られ、明朝体の変遷過程を考える上で貴重な資料となろう。

一〇、編成・経名異同

南蔵の目録である『大明三蔵聖教南蔵目録』は、『金陵梵刹志』巻四九に採録されている。本目録を作成する段階で、上記の南蔵目録と異なる編成・経名がいくつか確認された。まず編成の異同から示すと次のようである。

『金陵梵刹志』目録〔（　）内は南蔵No.〕	立正本〔（　）内は本目録No.〕
才（二七七～二八〇）	才二（〇三六）
如来獨證自誓三昧經	如来獨證自誓三昧經
佛説灌佛經	佛説造立形像福報經
佛説灌洗佛經	佛説灌佛經
佛説造立形像福報經	佛説灌洗佛經
孝（七二〇～七二三）	孝五（〇八六）
佛説沙曷比丘功德經	佛説年少比丘説正事經
佛為少年比丘正事經	佛説沙曷比丘功德經
佛説時非時經	佛説時非時經
佛説自愛經	佛説自愛經
興（九二七～九三〇）	興八（一一六）
佛説人仙經	佛説頻婆娑羅王經
佛説舊城喩經	佛説人仙經
佛説頻婆娑羅王經	佛説舊城喩經
佛説信解智力經	佛説信解智力經
都（一三六五～六七）	都一・二（一六六・一六七）
大乘唯識論	楞伽經唯識論
唯識二十論	轉識論
轉識論	大乘唯識論
	唯識二十論

経名の異同は次のとおりである。

大方廣佛華嚴經普賢菩薩行願品（八〇）	大方廣佛華嚴經（一〇～一一）
佛為少年比丘正事經（七二一）	佛説年少比丘説正事經（八六）
佛母般若圓集要義釋論（一四四三）	佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論（一七五）
宋高僧傳（一四七八）	有宋高僧傳（二〇七～二二一）
古尊宿語（一五一八）	古尊宿語録（三九九～四一七）
遺教論疏節要（一五七五）	佛遺教経論疏節要（四九八）
華嚴一乗教義分齊意（一五七六）	華嚴一乗教義分齊章（四九九）
禪宗頌古聯殊集（一六〇七）	禪宗頌古聯殊通集（五三九）

一一、異種経典

立正本中、『佛説魔逆經』（本目録通番六〇）の一巻のみ、他と装訂・印記などが異なっている。法量は他とほぼ同等であるが、表紙は表裏とも青地の厚紙に絹が被せてあり、表表紙には縦一九・二糎、横三・八糎の茶褐色の題簽がある。界高は二四・二糎。全張には「華□記」（縦三・六糎、横二糎）の朱印があるが、「法住寺」印は見られない。

万暦後期に作成された『大明三蔵聖教南蔵目録』には「請経条例」が付されているが、それには南蔵を価格によって九つのランクに分けた詳細なリストがある。おそらく万暦一八年当時も何種類かの南蔵が価格によって印造されていたと考えられ、本経典も当時印造されていた他のランクの経典が紛れ込んだものか、或は趙継先が発注した際、「華□記」印が示す当初の購入者に納入すべきものが、急遽転用されたかのいずれかであろう。

一二、初入蔵経典

南蔵には、宋元諸版の大蔵経に入蔵されたことのない、すなわち南蔵を初入蔵とする約八〇数種の経典が存在する。殊に此方撰述部の『梁武慈悲道場懺法』（No.一四八七）以下に集中して見られ、『法苑珠林』『宗鏡録』『景徳傳燈録』『圓悟佛果禪師語録』『傳

法正宗記』『傳法正宗論』『輔教篇』『大慧普覺禪師語録』『天目中峰和尚廣録』などや、『出三藏記集』『衆經目録』『大唐内天録』『開元釋教録』の目録類などを除いては、ほとんどが南蔵を初入蔵としている。そのうちの一つである『六祖壇經』(山口県快友寺蔵)が、柳田聖山氏によって影印刊行され、注目を集めている。

立正本中に現存している南蔵初入蔵経典は、『續傳燈録』『宗門統要續集』『古尊宿語録』『觀音玄義記』『觀音義疏記』『金光明經文句記』『請觀音經疏闡義鈔』『佛遺教経論疏節要』『華嚴一乗教義分斉章』『禪宗頌古聯珠通集』『佛祖統紀』など一一種である。

これらの経典のうち、禅籍の入蔵傾向や底本などについては、椎名宏雄氏の研究に詳しい。ところで上記の初入蔵経典は、その後北蔵さらには嘉興蔵へと継承され、その嘉興蔵本が我が国の鉄眼版(黄檗版)、縮刷蔵、卍蔵、卍続蔵、大正蔵の底本となっているのである。つまり今日一般に容易に目睹できる上記の経典類の原形は、南蔵初入蔵本ということになる。ところが、同一経典でありながら、縮刷蔵や大正蔵の底本たる嘉興蔵と南蔵との間に編成や内容に大きな相違が見られるものがある。詳細については後日を期すこととして、ここでは最も相違する経典をいくつか挙げてみることにしたい。

立正本中に現存する初入蔵経典で最も注意すべきものは『古尊宿語録』(本目録通番三九九～四一七)である。同経典は唐末北宋期の禅僧の語録を集めたもので、北宋の蹟蔵主の『古尊宿語要』に始まり、その後語録が増加され南宋代まで数種の版本が刊行されたが、遂に明初の南蔵に至って初めて入蔵され、書名も『古尊宿語録』と改められた。しかしこれは宋代のものとは異なり、明初に再編集されたものであった。これは北蔵には入蔵されなかったが嘉興蔵に受け継がれ、我が国の縮刷蔵や卍続蔵の底本となった(ただし大正蔵には入蔵されていない)。つまり現在容易にみることのできる『古尊宿語録』の原形は、明初に再編され南蔵に入蔵された『古尊宿語録』そのものであると考えられている。ところが嘉興蔵本『古尊宿語録』と南蔵本のそれとを比較してみると、編成・内容とも大きく食い違い、後者は前者に比して大いに節略されており、また前者には見られない禅師、すなわち白雲守端、仏照徳光、北礀居簡、物初大観、晦機元熙、笑隠大訢、仲方天倫、覚原慧雲などの語録が含まれているのである。就中元熙、天倫、慧曇の語録は全く未知のものである。また彼らはいずれも南蔵の編纂に参加した南京霊谷禅寺住持定巌浄戒の直系の法統に当たる禅師である。以上のように、従来考えられていたように南蔵本『古尊宿語録』は、嘉興蔵にそのまま継承されていたのではないことがわかり、また嘉興蔵本には見られない全く未知の禅師の語録も収録されており、きわめて貴重な新史料といえよう。なお詳細については、本目録の別冊として刊行される影印集の解説を参照されたい。

次に異同が見られるのは『佛遺教経論疏節要』(本目録通番四九八)である。南蔵本は「晉水沙門浄源」の撰述本であるが、

嘉興蔵本はそれに袾宏の補註が付せられている。周知のとおり袾宏(万暦四三、一六一五年没)は、三教帰一を提唱したいわゆる明末の四大師のひとりとして著名である。嘉興蔵本はその刊記によれば万暦四〇年に開板されたものである。つまり嘉興蔵は、当時新たに袾宏が註を付した『佛遺教経論疏節要』を入蔵させたことがわかる。さらに嘉興蔵本の巻首には唐の太宗の御制「佛遺教経施行勅」がある(嘉興蔵本を底本としている大正蔵には何故かこの勅が欠如している)が、南蔵本には見られない。このように嘉興蔵は『佛遺教経論疏節要』を入蔵させるに際し、南蔵本をそのまま用いず、当時行なわれていた袾宏補註本を採用していたのである。そしてこの嘉興蔵本が、その後の清の龍蔵や我が国の卍蔵、大正蔵などの底本となっているのである。なお北蔵にも同経典は入蔵されているが、袾宏の補註本が行なわれるのは北蔵が完成された以降であるから、おそらく南蔵本をそのまま入蔵させていたものと推定される。

次に『禪宗頌古聯珠通集』(本目録通番五三九)が挙げられる。立正本にはわずか一巻のみしか現存していないが、やはり嘉興蔵本のそれとは編成を異にしている。すなわち南蔵本の『禪宗頌古聯珠通集巻第七』には次の六名の禅師が立伝されている。

a 澧州薬山惟儼禪師
b 鄧州丹霞天然禪師
c 潮州霊山大顛寶通禪師
d 潭州長髭曠禪師
e 澧州大同普済禪師
f 潭州溈山霊祐禪師

ところが、嘉興蔵本のそれではa~bを他の禅師とともに巻十四に、c~fを巻十五に分巻しているのである。南蔵本は全二一巻から成っていたようであるが、嘉興蔵本は全四〇巻である。両者は単に編成の相違だけなのか、あるいは相当に異同がみられるのかは、立正本中にわずか一巻のみしか現存していないので判然としない。

以上のほか、『宗門統要續集』『華嚴一乗教義分斉章』『佛祖統紀』などに、嘉興蔵と若干異なる編成上の相違が見られる。

あとがき

以上、立正大学図書館に所蔵されている南蔵について、現時点までに判明した事項を中心に報告してきた。しかし依然として不明な点は多く、ここに述べてきたことはほんの一部に過ぎない。

ところで中国では、現在でも多くの南蔵や北蔵が存在していると聞く。将来こうした中国の南北両蔵が公刊されたなら、南蔵に関する様々な問題点は氷解されることであろう。その実現される日を鶴首して待ちたい。

なお本解説では一々注記しなかったが、主に左記の文献を参

考にさせていただいた。

大蔵会編『大蔵経―成立と変遷』（百華苑、一九六四）
龍池清「明代刻蔵考」（『東方学報』東京、第八冊、一九三八）
禿氏祐祥「明初における大蔵経校刻の事業」（『密教研究』一一、一九二三）
長谷部幽蹊「明代以降における蔵経の開雕」（『愛知学院大学論集』一般教養研究三〇―三・四、三一―一、二、一九八三、四）
椎名宏雄「明版大蔵経と宋元版禅籍」（『宗学研究』二七、一九八五）
張新鷹「関于仏教大蔵経的一些資料」（『世界宗教資料』一九八四―四）
長沢規矩也「元刊本刻工名表初稿」、「明初刊本五種」（『長沢規矩也著作集』第三巻、宋元版の研究所収、汲古書院、一九八三）
阿部隆一『増訂中国訪書志』（汲古書院、一九八三）
尾崎　康「宋元刊南北史・七史および隋書について（上）」（『斯道文庫論集』一九、一九八三）、「同（上）補訂」、「同（下）」（『斯道文庫論集』二〇、一九八四）、「宋元刊両唐書および五代史記について」（『斯道文庫論集』二一、一九八五）
寺田隆信『山西商人の研究』（同朋舎、一九七二）
竹村真一『明朝体の歴史』（思文閣出版、一九八六）
野沢佳美「明代南蔵考―立正大学図書館及び山口県快友寺所蔵本を通して―」（『立正史学』六〇、一九八六）、「明末清初の南蔵と補刻者」（『立正史学』六三、一九八八）

（野沢佳美　立正大学文学部講師）

索

引

〈ア〉
阿育王傳……22
阿闍世王受決經……4
阿遮達經……12
阿難七夢經……13
阿難分別經……11
阿難問事佛吉凶經……11
阿毘曇甘露味論……26
〈イ〉
一切如來名号陀羅尼經……20
因縁僧護經……15
〈ウ〉
右遶佛塔功德經……9
優婆夷堕舍迦經……10
盂蘭盆經……6
〈エ〉
縁起聖道經……5
〈カ〉
開元釋教録……62
開元釋教録略出……65
戒德香經……11
海龍王經……8
餓鬼報應經……11
過去現在因果經……12
呵鵰阿那含經……13
月光童子經……4
月光菩薩經……19
觀世音菩薩得大勢菩薩受記經……8
灌洗佛經……5
觀音義疏……60
觀音義疏記……60
觀音玄義……60
觀音玄義記……60
灌佛經……5
觀彌勒菩薩下生經……4
觀無量壽佛經……3
觀無量壽佛經疏……61
〈キ〉
鬼子母經……16
起世因本經……10
鬼問目連經……11
校量數珠功德經……6
玉耶經……12
玉耶女經……12
〈ク〉
九横經……16
孔雀王呪經……6
舊城喩經……20
弘明集……32
羣牛譬經……16
〈ケ〉
華嚴一乘教義分齊章……61
解節經……3
懈怠耕者經……14
月上女經……8
外道問聖大乘法無我義經……17
堅意經……13
賢愚因縁經……21
賢劫經……8
賢者五福經……15
〈コ〉

廣義法門經……11
廣弘明集……32
恒水經……10
高僧傳……29
廣大蓮華莊嚴曼拏羅滅一切罪陀羅尼經……18
五王經……15
五苦章句經……13
五恐怖世經……14
護淨經……15
古尊宿語録……51
五母子經……12
金剛針論……26
金光明經文句記……60
銀色女經……4

〈サ〉

齋經……10
採華違王上佛受決經……4
作佛形像經……5
讃揚聖德多羅菩薩一百八名經……17

〈シ〉

自愛經……13
止觀輔行傳弘決……58
師子莊嚴王菩薩請問經……9
師子素馱娑王斷肉經……9
治禪病秘要經……11
四諦經……10
七俱胝佛母准提大明陀羅尼經……7
七俱胝佛母心大准提陀羅尼經……7
七佛經……19
四天王經……14
四人出現世間經……11
四念處……61
時非時經……13
四分僧羯磨……23
沙曷比丘功德經……13
差摩婆帝受記經……9
沙彌羅經……12
十一面觀自在菩薩心密言念誦儀軌經……21
集大乘相論……27
十二緣生祥瑞經……17
十二頭陀經……9
宗門統要續集……47
修行本起經……11
衆經目録（隋仁壽年翻經沙門及學士等撰）……62
衆經目録（隋翻經沙門法經等奉勅撰）……62
種種雜呪經……7
樹提伽經……10
出家功德經……15
出三藏記集……61
順中論……25
聖觀自在菩薩一百八名經……17
聖觀自在菩薩梵讃……19
請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪經……7
請觀音經疏闡義鈔……61
正恭敬經……4
勝軍化世百喩伽他經……17
稱讃大乘功德經……4
聖多羅菩薩經……20
正法華經……2
淨飯王般涅槃經……13
勝鬘師子吼一乘大方便方廣經……1
聖曜母陀羅尼經……19
諸經要集……28
除恐災患經……8
諸德福田經……8
諸佛心印陀羅尼經……18
信解智力經……20

新歳經……16
申日兒本經……4
信佛功德經……20

〈ス〉

隨相論……26
宗鏡録……36

〈セ〉

逝童子經……4
説妙法決定業障經……4
善恭敬經……4
禪宗頌古聯珠通集……65
旃陀越國王經……14
栴檀樹經……15
善樂長者經……20

〈ソ〉

(有)宋高僧傳……30
雜藏經……11
造立形像福報經……5
續高僧傳……30
息除賊難陀羅尼經……20
續傳燈録……44
尊勝大明王經……18
孫多耶致經……16

〈タ〉

大愛道比丘尼經……23
第一義法勝經……4
大方等如來藏經……8
大魚事經……13
大孔雀呪王經……6
大金剛妙高山樓閣陀羅尼……18
大三摩惹經……19
太子瑞應本起經……12
大乘集菩薩學論……28
大正句王經……20
大莊嚴經論……24
大乘莊嚴經論……25
大乘二十頌論……27
大乘破有論……26
大乘寶要義論……27
大乘唯識論……26
大般涅槃經論……23
大方廣佛華嚴經……2

〈チ〉

智光滅一切業障陀羅尼經……19
中邊分別論……25
長者施報經……19
長壽王經……10
頂生王因緣經……21
長爪梵志請問經……16

〈テ〉

弟子死復生經……14
轉識論……26
天請問經……15
天目中峯和尚廣録……48

〈ト〉

稻稈經……5
燈指因緣經……14
得無垢女經……1

〈ナ〉

泥犂經……10
奈女耆域因緣經……13
奈女耆婆經……13

〈ニ〉
入定不定印經……3
如意寶摠持王經……19
如來獨證自誓三昧經……5
人仙經……20

〈ネ〉
涅槃經本有今無偈論……23
年少比説正事經……13

〈ハ〉
貝多樹下思惟十二因縁經……5
頞多和多耆經……15
八吉祥經……6
八吉祥神呪經……5
八佛名号經……6
八陽神呪經……5
般泥洹後灌臘經……9

〈ヒ〉
毘俱胝菩薩一百八名經……17
比丘聽施經……16
毘沙門天王經……19
苾芻伽尸迦十法經……18
苾芻五法經……18
譬喩經……16
頻婆娑羅王經……20

〈フ〉
伏婬經……10
福力太子因縁經……21
普賢菩薩陀羅尼經……18
布施經……19
普達王經……15
佛為海龍王説法印經……9
佛一百八名讃……19
佛祖統紀……65
佛頂尊勝陀羅尼經……7
佛滅度後棺斂葬送經……16
佛母大孔雀明王經……7
佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論……27
佛母般若波羅蜜多圓集要義論……27
佛遺教経論疏節要……61
婦人遇辜經……14
父母恩難報經……16
普門品經……1
普曜經……2

〈ヘ〉
弊魔試目連經……10
辯意長者子所問經……14
辯中邊論……25

〈ホ〉
法苑珠林……36
報恩奉盆經……6
法鏡經……1
法常住經……10
胞胎經……1
菩薩投身飼餓虎起塔因縁經……9
菩薩内習六波羅蜜經……9
菩薩本生鬘論……28
菩提資粮論……23
菩提心離相論……26
法華玄義釋籤……54
法身經……20
本相倚致經……10
梵摩難國王經……16

〈マ〉
摩訶迦葉度貧母經……14
魔逆經……9
摩達國王經……14
摩登伽經……11
摩鄧女經……12
摩登女解形中六事經……12
魔嬈亂經……10
末羅王經……14
摩利支天陀羅尼呪經……7
曼殊室利呪藏中校量數珠功德經……6
慢法經……11

〈ミ〉
妙色王因緣經……9
妙臂菩薩所問經……18
妙法聖念處經……17
妙法蓮華經……3
妙法蓮華經優波提舍……23
妙法蓮華經玄義……52
妙法蓮華經文句……57
妙法蓮華經論優波提舍……23
彌勒下生經……3
彌勒下生成佛經……3
彌勒來時經……3

〈ム〉
無垢優婆夷問經……14
無上依經……4
無上處經……15

〈モ〉
木槵經……15
目連所問經……17
文殊師利佛土嚴淨經……1

〈ヤ〉
耶祇經……14

〈ユ〉
唯識二十論……26

〈ヨ〉
浴像功德經（唐天竺三藏法師寶思惟譯）……6
浴像功德經（唐三藏法師義淨奉詔譯）……6

〈リ〉
離垢施女經……1
略教誡經……16
龍施女經……5
龍施菩薩本起經……5
楞伽經唯識論……26
療痔病經……16

〈レ〉
蓮華面經……9

〈ロ〉
六十頌如理論……27
六道伽陀經……18
盧至長者因緣經……15

立正大学
図書館所蔵　明代南蔵目録

平成元年二月一六日発行　非売品

編集・発行　立正大学図書館
東京都品川区大崎四―二―一六　〒一四一

印刷・製本　㈲東京プリントサービス
東京都大田区新蒲田二―二〇―三　〒一四四